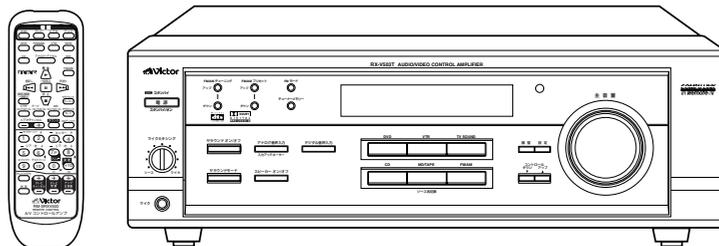
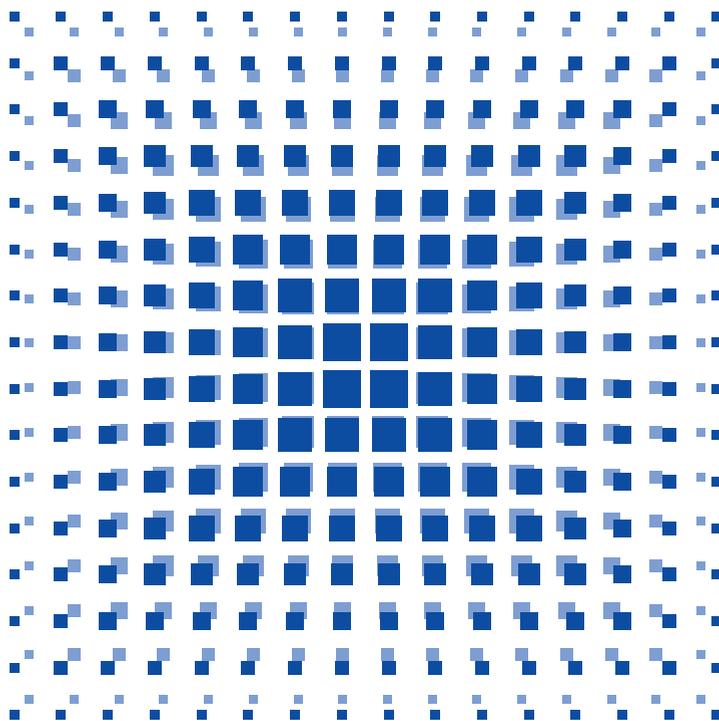
取扱説明書

お使いになる前に
準備
基本操作
音質調節とサラウンド設定
その他の操作
知っておいてほしいこと

AVコントロールアンプ

型名 RX-V503T

Audio/Video Control Amplifier

RX-V503T

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に3〜6ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

LVT0930-001A

もくじ

お使いになる前に　ページ

準備　ページ

基本操作　ページ

音質調節とサラウンド設定　ページ

その他の操作　ページ

知っておいてほしいこと　ページ

安全上のご注意 ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

●絵表示の説明

注意をうながす記号

一般的注意

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

行為を指示する記号

一般的指示

電源プラグを抜く

⚠警告

万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

• 煙が出ている、へんなにおいがするとき

電源プラグを抜く

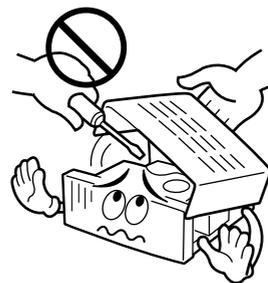
• 内部に水や異物が入ってしまったとき
• 落としたり、破損したとき
• 電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

電源プラグを抜く

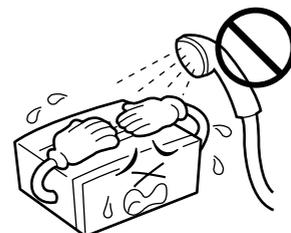
すぐに電源を「切」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜く。異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

分解や改造をしない。カバーを外さない。

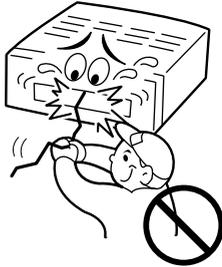
火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

分解禁止

風呂場やシャワー室では使用しない。

本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

水場での使用禁止

⚠警告

本機の中に物を入れない。

通風孔などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

本機の上に水などの入った容器を置かない。

花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

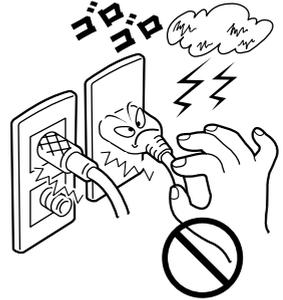
電源コードを傷つけない。

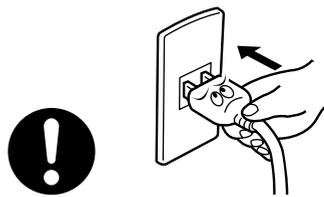
電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。特に、次のことに注意してください。

- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

感電の原因となります。

接触禁止

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する。

表示された電源電圧以外では、火災･感電の原因となります。

本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取り除いてください。

本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。

禁止

⚠注意

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。
電源プラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置する場合は、壁から10cm以上離してください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

設置場所に注意する。

次のような所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。

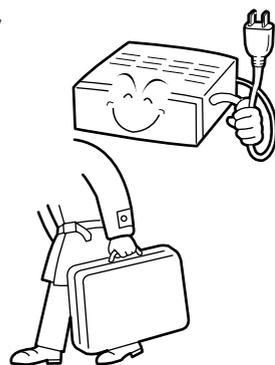
- 湿気やほこりの多い所
- 直射日光の当たる所や、熱器具の近くなど高温になる所
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすい所

本機の上に重い物を置かない。

テレビなどの重い物や本機からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグを抜く

⚠注意

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない。

突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。
電源を切る前に音量(ボリューム)を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

電池の取り扱いに注意する。

電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。
次のことに注意してください。

- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス(+)とマイナス(−)を間違えない
- 電池のプラス(+)とマイナス(−)をショートさせない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく

もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

設置についてのご注意

故障などを防止するため次の場所は避けてください。

- 不安定な所
- 振動の激しい所
- 湿気やほこりの多い所

寒い所から急に暖かい部屋へ移動したときは、約1〜2時間待ってから電源を入れてください。

主な特長

■ ドルビーデジタルデコーダー搭載

映画館や劇場に匹敵する臨場感を再現するドルビーデジタル5.1chサラウンドに対応。センタースピーカー、サラウンドスピーカーやサブウーハーを接続することにより、迫真の立体音場の再生が可能です。DTSデジタルサラウンドにも対応しています。

■ デジタル処理によるドルビープロロジックII サラウンド

ドルビープロロジックIIデコーダーを内蔵。これによりすべての2ch音声(通常のステレオ音声とドルビーサラウンド方式で記録された音声)を5.1chで聞くことができます。また、従来のドルビープロロジック方式に比べて、リアスピーカーの高音域も再生することができます。立体感・包囲感のあるサラウンドがお楽しみいただけます。

■ ホールの臨場感をさらに高めるDAPモード

世界の著名なコンサートホールやライブハウスなどの音場を、デジタル処理により創り出して再現。同じアーティストの演奏でも、違った雰囲気で楽しむことができます。

■ MPEG-2 AAC(エムペグツー エーエーシー)デコーダー搭載

MPEG-2 AACとは、BSデジタル放送で採用されている音声圧縮技術です。限られた放送帯域を使って最大5.1chまでのマルチチャンネル再生が可能です。
本機は、MPEG-2 AACデコーダーを搭載しています。

■ マイクミキシング

店内放送、校内放送などで、BGM(バックグラウンドミュージック)を流しながらアナウンスができます。

■ メイク接点入力端子搭載

本機の電源の「入/切」を、別売りのプログラムチャイム(PA-T30、PA-T130など)を利用して、外部接続機器でコントロールすることができます。

■ ビクター製品との連係プレイが可能

ビクター製のオーディオ機器などと組んで、ワンタッチでさまざまな連係プレイを可能にするコンピュリンク機能を搭載しています。

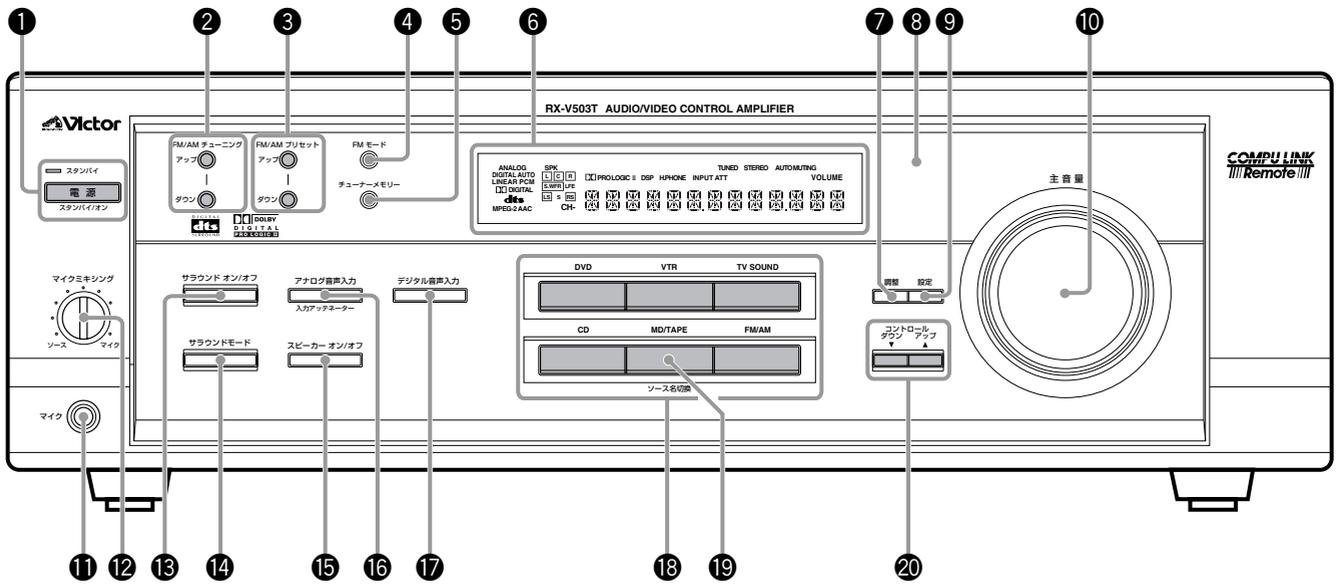
■ 他社製のテレビ・ビデオデッキ・DVDプレーヤー対応のマルチブランドリモコン

付属のリモコンは、ビクター製品はもちろん国内外14社のテレビ、ビデオデッキ、DVDプレーヤーをコントロールできます。

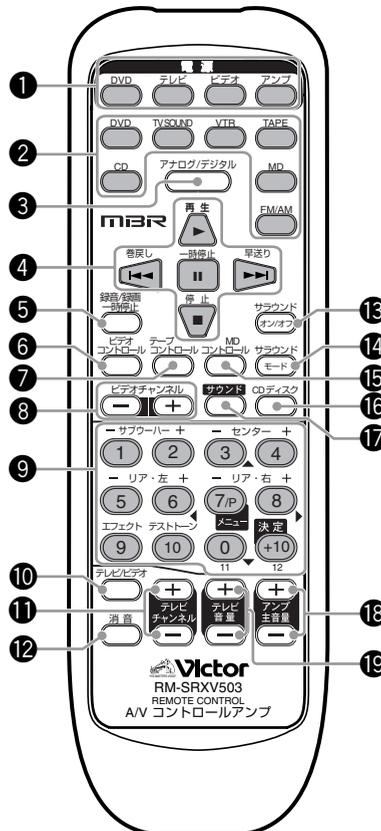
■ ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓を閉めてご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

各部の名前

本体

本体(参照ページ)

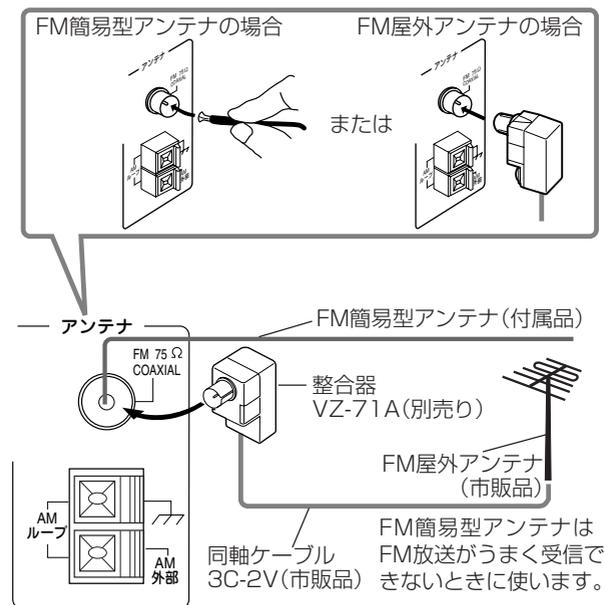
❶ 電源(スタンバイ/オン)ボタンと スタンバイランプ(15)
❷ FM/AM チューニングアップ/ダウン ボタン(23)
❸ FM/AM プリセット アップ/ダウン ボタン(24 25)
❹ FM モードボタン(24)
❺ チューナーメモリーボタン(24)
❻ 表示窓(15 16 21)
❼ 調整ボタン(18 22 35)
❽ リモコン受光部(14)
❾ 設定ボタン(20 22 29～31)
❿ 主音量つまみ(17)
⓫ マイク端子(17)
標準プラグ(6.3mm)のマイクをつなぎます。
⓬ マイクミキシングつまみ(17)
⓭ サラウンドオン/オフボタン(28 34)
⓮ サラウンドモードボタン(28 34)
⓯ スピーカーオン/オフボタン(19)
⓰ ·アナログ音声入力ボタン(20)
·入力アッテネーターボタン(19)
⓱ デジタル音声入力ボタン(20)
⓲ ソース機器選択ボタン(16)
DVD、VTR、TV SOUND、CD、MD/TAPE、FM/AM
⓳ ソース名切換ボタン(17)
⓴ コントロールアップ(▲)/ダウン(▼) ボタン(18 20 21 22 29～31)

リモコン(RM-SRXV503)

リモコン(参照ページ)

❶ 電源ボタン(15 39～41)
DVD、テレビ、ビデオ、アンプ
❷ ソース機器選択ボタン(16)
DVD、TV SOUND、VTR、TAPE、CD、MD、FM/AM
❸ アナログ/デジタルボタン(21)
❹ 操作ボタン(38～41)
再生(►)、一時停止(❚❚)、停止(■)、巻戻し(|◄◄)、早送り(►►|)
❺ 録音/録画一時停止ボタン(38～40)
❻ ビデオコントロールボタン(39 40)
❼ テープコントロールボタン(38)
❽ ビデオチャンネル+/−ボタン(40)
❾ 数字キー
·記憶した放送局を選ぶ(25 37)
·出力レベルの調節(22 33 37)
·AV機器操作(38～41)
❿ テレビ/ビデオボタン(39 40)
⓫ テレビチャンネル+/−ボタン (39 40)
⓬ 消音ボタン(19)
⓭ サラウンドオン/オフボタン(28 32)
⓮ サラウンドモードボタン(28 32)
⓯ MDコントロールボタン(38)
⓰ CDディスクボタン(38)
⓱ サウンドボタン(22 33)
⓲ アンプ主音量+/−ボタン(17)
⓳ テレビ音量+/−ボタン(39 40)

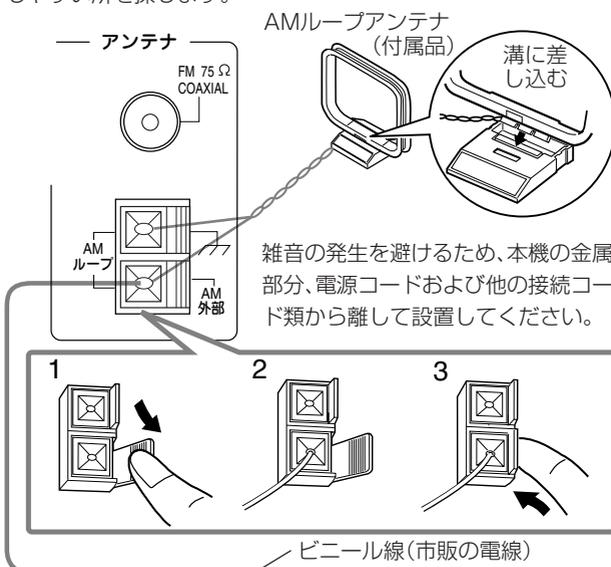
接続

アンテナを接続する

FMアンテナの接続

マンションなどの共同住宅にお住まいの方は

マンションのテレビ（VHF/UHF）用共聴アンテナ端子につないでください。すでにテレビなどが接続されているときは、市販の分配器などをお使いください（ただし、電波が弱いとうまく受信できないことがあります）。

AMアンテナの接続

AMループアンテナは、窓の近くなど置く位置や、向きを変えて受信しやすい所を探します。

AM放送がうまく受信できないときは

AM外部端子から3m～5mのビニール線（電線）を張ります。窓際や屋外になるべく高く水平に張ると効果的です。
AMループアンテナは接続したままにしてください。
⏚（アース）端子にアース線を接続すると、より雑音が軽減されます。

ご注意

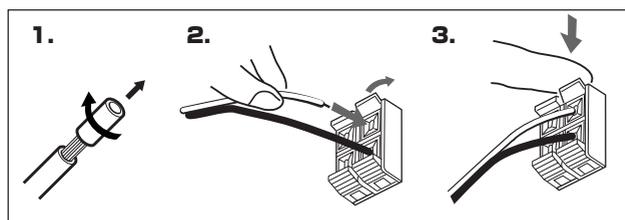
- AMループアンテナの先端にビニールがついているときは、コード先端の芯線をよじりながらビニールを抜き取ってください。

スピーカーを接続する

本機には次のようなスピーカーを接続することができます。

- フロントスピーカー　：2本 ┐
- リアスピーカー　　　：2本 ├‥‥SP-X100（別売り）など
- センタースピーカー　：1本 ┘
- パワードサブウーハー：1本‥‥‥ SP-PW100（別売り）など

スピーカーコードの接続のしかた（例：フロントスピーカーの場合）

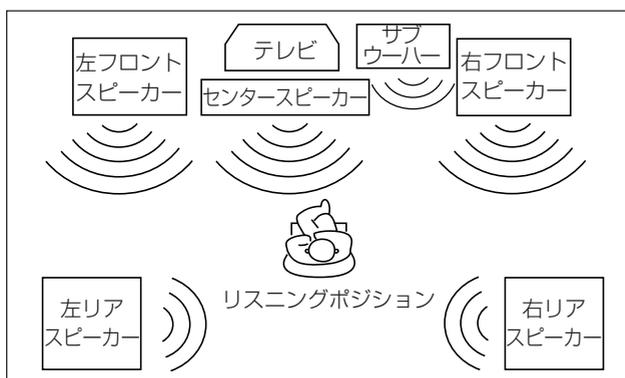
フロントスピーカー、リアスピーカー、センタースピーカーはインピーダンスが6Ω～16Ωのものを使用してください。

1. コードの先端にビニールがついているときは、芯線をよじりながらビニールを抜き取る
2. 端子を開き、その中にスピーカーコードの芯線を差し込む
3. 端子を閉じて固定する

ご注意

- スピーカーコードの極性（⊕、⊖）を間違えて接続すると、ステレオ感や音質がそこなわれます。スピーカー側の⊕ ⊖端子と本機側の⊕ ⊖端子を正しく接続してください。
- **一つのスピーカー端子に複数のスピーカーを接続しないでください。**故障や事故の原因となります。

スピーカーの配置例

お持ちのスピーカーの数に合わせて、スピーカーを配置してください。

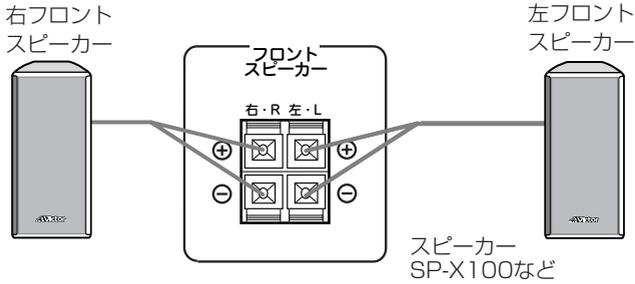
- 詳しくは 28 ページの「サラウンドを使うためのスピーカー配置」を参照してください。

ご注意

- テレビの近くに設置するセンタースピーカーやフロントスピーカーなどは、防磁型スピーカーをお使いください。
  万一、テレビの画面に色ムラを生じるときは、スピーカーとテレビを離して設置してください。

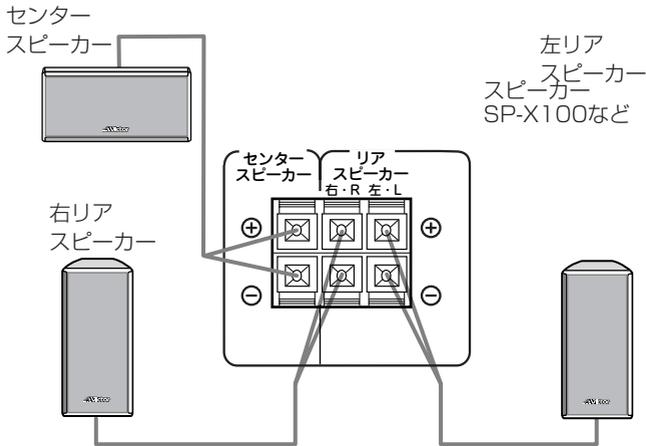
10 ページに続く

スピーカーを接続する(つづき)

フロントスピーカーの接続

右側のスピーカーをフロントスピーカーの右･R 端子に、左側のスピーカーを左･L 端子に接続します。

リアスピーカーとセンタースピーカーの接続

リアスピーカー　：右側のスピーカーをリアスピーカーの右･R 端子に接続します。
左側のスピーカーをリアスピーカーの左･L 端子に接続します。

センタースピーカー：センタースピーカー端子に接続します。

サブウーハーの接続

サブウーハー(アンプ内蔵型)を接続すると、より迫力のある重低音がお楽しみいただけます。
サブウーハーを接続するときは、RCAピンプラグ付きコードで、サブウーハー出力端子に接続します。

• 詳しくは、サブウーハーの取扱説明書をご覧ください。

AV機器を接続する

次のようなAV機器を接続することができます。

• 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

オーディオ機器	ビデオ機器
･CD プレーヤー	･ビデオデッキ
･MD レコーダー またはカセットデッキ	･テレビ (従来型または BS デジタルチューナー内蔵テレビ)
	･DVD プレーヤー

アナログ接続

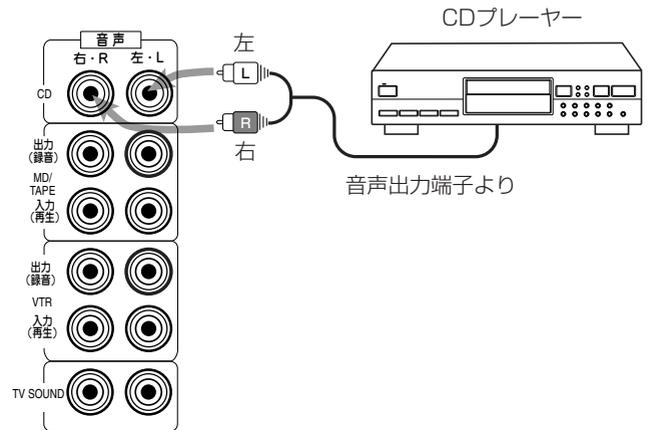
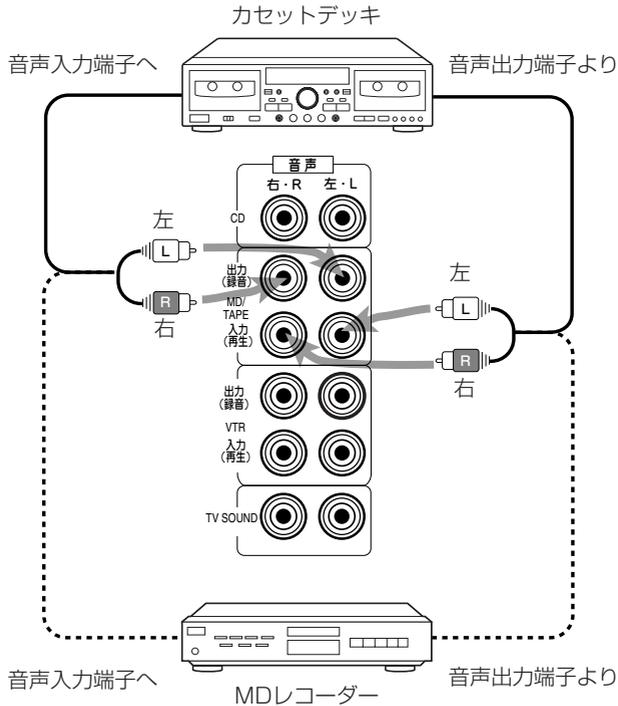
オーディオ機器の接続

RCAピンプラグ付きコードを使って接続します。

• 音声コードを接続するときは、赤いプラグを右･R端子に、白いプラグを左･L端子に接続してください。

ご注意

• 本機と接続する機器の間にグラフィックイコライザーなどの機器を接続すると音がひずむことがありますので、ご注意ください。

CDプレーヤー

MDレコーダーまたはカセットデッキ

<お知らせ>

- MD/TAPE端子にはMDレコーダーまたはカセットデッキを接続することができます。カセットデッキを接続するときは、ソース選択時に表示窓に表示されるソース機器名を「MD」から「TAPE」に変更してください。(➔ 17 ページ参照)

オーディオ機器にコンピュリンク-4端子があるときは・・・

ビクター製のコンピュリンク対応のオーディオ機器をコンピュリンク-4端子を使って接続すると、一体型システムのような連係プレイが可能になります。

「コンピュリンク・リモートコントロールシステム」については、36 ページをご覧ください。

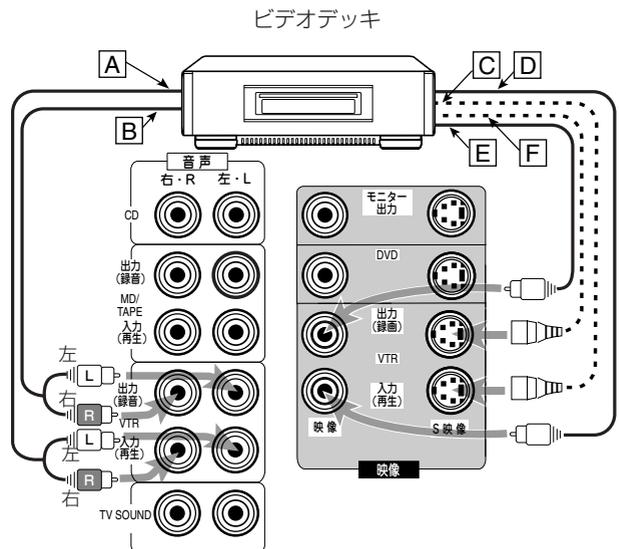
ビデオ機器の接続

RCAピンプラグ付きコードまたはS映像コードを使って接続します。

- 映像/音声コードを接続するときは、黄色のプラグを映像端子に、赤いプラグを音声の右・R端子に、白いプラグを左・L端子に接続してください。
- 接続するビデオ機器にS映像端子があるときは、S映像コードを使って接続するとよりよい画質でお楽しみいただけます。

本機には、映像入力/出力端子として、コンポジット映像端子とS映像端子の2種類の端子があります。
コンポジット映像端子から入力された信号は、コンポジット映像端子から出力され、S映像端子から入力された信号は、S映像端子から出力されます。
コンポジット映像端子とS映像端子の両方を接続する必要はありませんが、次のことにご注意ください。

- 録画用の機器と再生用の機器が同じ種類の端子に接続されていないと、映像を録画することはできません。
- テレビと再生用ビデオ機器が同じ種類の端子に接続されていないと、映像をテレビで見ることはできません。

ビデオデッキ

A 音声出力端子より
B 音声入力端子へ
C S映像出力端子より(よりよい画質でお楽しみになりたいとき)
D コンポジット映像出力端子より
E コンポジット映像入力端子へ
F S映像入力端子へ(よりよい画質でお楽しみになりたいとき)

準備

12 ページに続く

AV機器を接続する（つづき）

テレビ

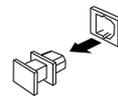
DVDプレーヤー

A 左右のフロントチャンネル音声出力端子より
（または音声ミックス出力端子より）
B S映像出力端子より（よりよい画質でお楽しみになりたいとき）
C コンポジット映像出力端子より

デジタル接続

ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドやMPEG-2 AACサラウンドをお楽しみいただくには、再生機器と本機をデジタル入力端子でつないでください。

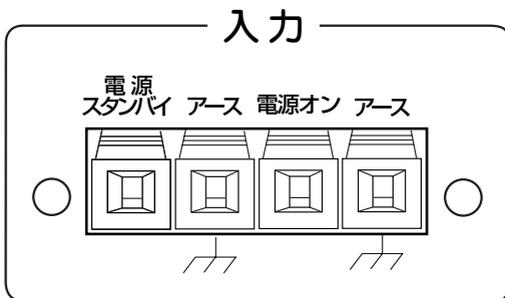
本機には、デジタル入力端子として、同軸デジタル端子1系統（デジタル1）と光デジタル端子1系統（デジタル2）があります。

- DVDプレーヤーをデジタル端子に接続するときは、背面の映像端子（コンポジットまたはS映像）にも接続してください。
- デジタル入力端子に機器を接続した後に、以下の設定をしてください。
  (1)接続したデジタル機器名を正しく設定してください。詳しくは 20 ページの**「デジタル入力端子に接続した機器名を設定する」**を参照してください。
  (2)入力としてデジタル入力を選択してください。詳しくは 20 ページの**「デジタル音声を選ぶ」**を参照してください。

<お知らせ>

- お買い上げ時には、デジタル入力端子は、それぞれ以下の機器を接続するように設定されています。
  デジタル1（DVD）端子（同軸）：　DVDプレーヤー
  デジタル2（CD）端子（光）　：　CDプレーヤー
- CDプレーヤーまたはMDレコーダーをコンピュリンク・リモートコントロールシステムを使って操作するときは、10、11 ページの「アナログ接続」も同時に行ってください。
- 本機にLDプレーヤーやDATデッキを接続することもできます。
- 本機は、BSデジタル放送のMPEG-2 AAC（Advanced（アドバンスド） Audio（オーディオ） Coding（コーディング））方式に対応しています。（➡ 26 ページ参照）

外部接続で本機の電源を「入/切」する（メイク接点）

本機は、外部から電源を「入/切」する「メイク接点」に対応しています。

● **本機後面の入力端子**

・**電源オン**　：外部から本機の電源を「入」にするときにつなぎます。

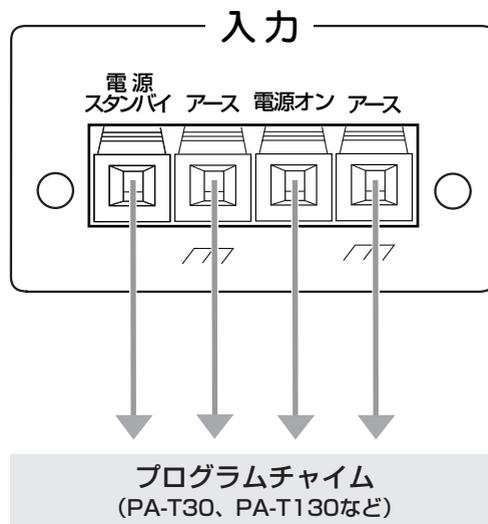
・**アース**
（電源オン側）：本端子と電源オン端子とを同時に接続しないと、電源を「入」にすることはできません。

・**電源スタンバイ**：外部から本機の電源を「切（待機状態）」にするときにつなぎます。

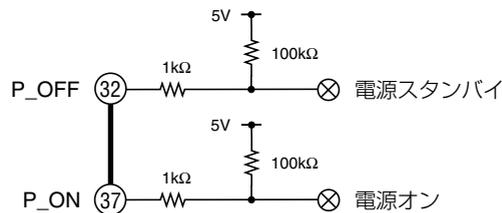
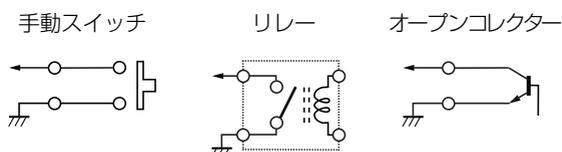
・**アース**
（電源スタンバイ側）：本端子と電源スタンバイ端子とを同時に接続しないと、電源を「切（待機状態）」にすることはできません。

● **外部タイマーで電源を時間管理するときの接続**

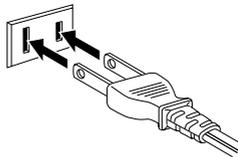
1. 時間設定用に別売りのプログラムチャイム（PA-T30、PA-T130など）を用意します。
2. プログラムチャイムは、「パルス出力モード」でプログラムします。（詳しくは、お持ちのプログラムチャイムの取扱説明書をご覧ください）
3. プログラムチャイムの出力接点端子を本機後面のメイク接点入力端子につなぎます。

プログラムチャイム
（PA-T30、PA-T130など）

● **入力端子回路と使用例**

(1)入力端子には、無電圧接点（リレーや手動スイッチなど）、またはオープンコレクター接点を使用してください。
(2)各入力パルス信号は、1.5秒以上のLOW（ロー）レベルの信号（端子間電圧は1.5V以下、端子間抵抗は100Ω以下）を入力してください。
(3)外部でのプルアップ抵抗は、接続しないでください。

・**マイコンの入力端子回路**

・**入力端子に接続する接点の使用例**

電源コードを接続する

接続がすべて終わってから、電源プラグを屋内用コンセントにつないでください。
電源コードを接続すると、本機は自動的に電源が「入」になります。

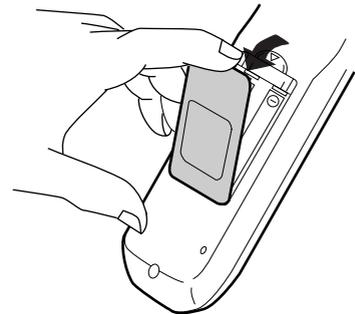
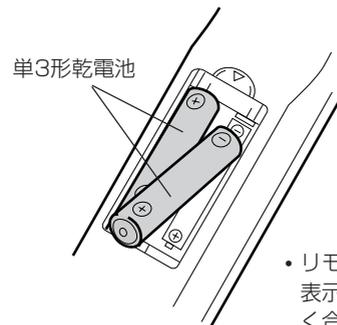
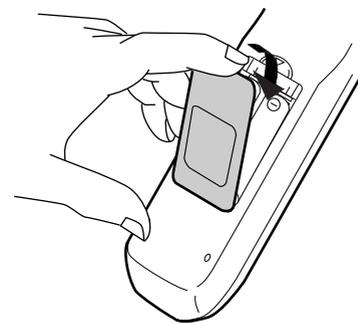
屋内用コンセント
AC100V 50Hz/60Hz

<お知らせ>
記憶させた放送局や操作の設定、サウンド効果などの設定は、次のような場合に消去されることがあります。このようなときは、もう一度設定し直してください。
- 電源コードをコンセントから抜いたままにしたとき(レジューム機能による内容保持は数日間です)
- 長時間の停電が起こったとき

ご注意
- 電源コードはテレビやビデオデッキ、アンテナ線などから離してください。雑音が発生したり、映像が乱れたりすることがあります。
- 電源プラグをコンセントから抜くときは、電源コードではなく、必ずプラグを持って抜いてください。
- 濡れた手で電源プラグに触らないでください。

リモコンに乾電池を入れる

付属の単3形乾電池をリモコンに入れます。

1 裏ぶたをはずす

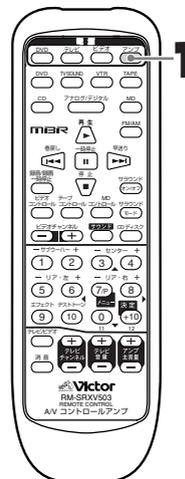
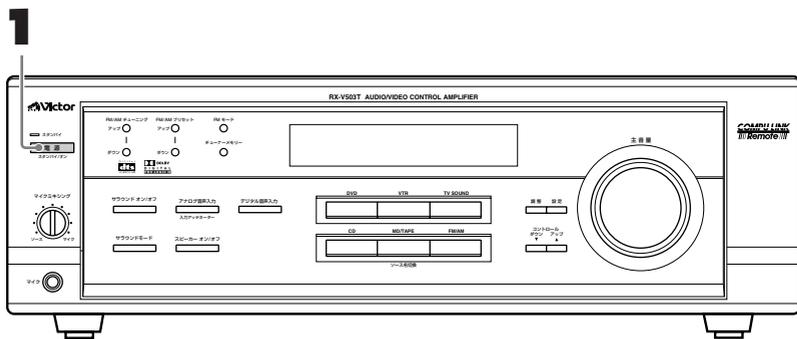
2 乾電池を入れる

- リモコン内部の極性表示(⊕、⊖)に正しく合わせて入れる。

3 裏ぶたをしめる

リモコンを使って操作するときは、リモコンを本体のリモコン受光部に向けてください。

操作範囲が狭くなってきたり、本体に近づけないと操作できなくなってきたときは、乾電池を交換してください。
交換の際は、2本とも同じ種類の新しい乾電池と交換してください。

ご注意
- 長い間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。
- 乾電池のプラス(⊕)とマイナス(⊖)の向きは、表示通り正しく入れてください。

基本の操作

電源を入れる

1

本　体

リモコン

1 電源(スタンバイ/オン)ボタンを押す

スタンバイランプが消え、現在選ばれているソース機器名が表示窓に表示されます。

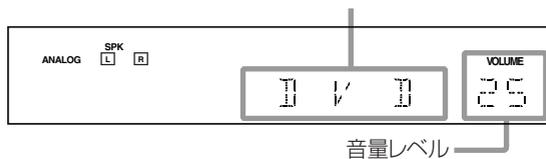
スタンバイ
電 源
スタンバイ/オン

現在選ばれているソース機器名(例:DVDのとき)

ANALOG　SPK L R　DVD　VOLUME 25

音量レベル

1 アンプ電源ボタンを押す

スタンバイランプ(本体前面)が消え、現在選ばれているソース機器名が本体の表示窓に表示されます。

電源を切るには

電源(スタンバイ/オン)ボタンを押す

スタンバイランプが赤く点灯し、「切(待機状態)」になります。

電源を切るには

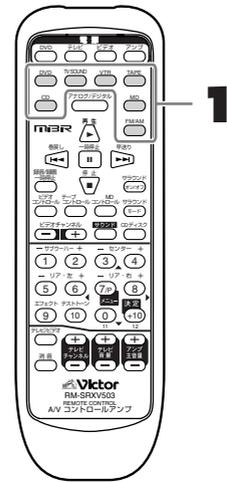
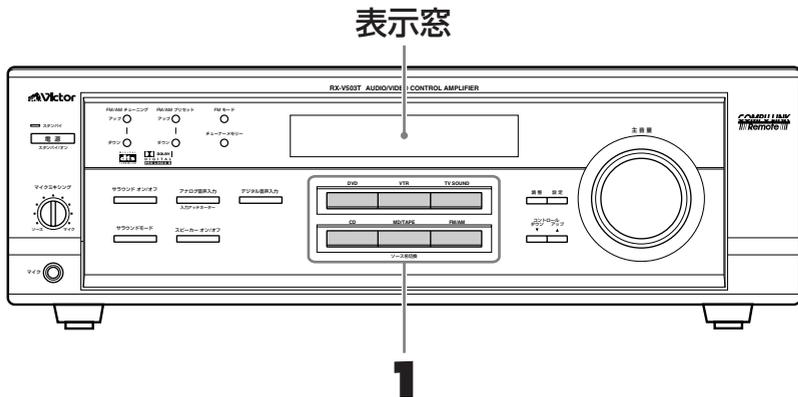
アンプ電源ボタンを押す

スタンバイランプ(本体前面)が赤く点灯し、「切(待機状態)」になります。

<お知らせ>

- 「切(待機状態)」のときでも、わずかな電力(2W)が消費されています。長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

再生するソース(音源)を選ぶ

本　体

1 ソース機器選択ボタンのいずれかを押して再生するソース(音源)を選ぶ

表示窓

現在選ばれているソース機器名が表示されます。

DVD	：DVDプレーヤーを選ぶとき
VTR	：VTR端子に接続されたビデオ機器を選ぶとき
TV SOUND	：テレビを選ぶとき
CD	：CDプレーヤーを選ぶとき
MD/TAPE	：MDレコーダーやカセットデッキを選ぶとき
FM/AM	：FM放送またはAM放送を選ぶとき

リモコン

1 ソース機器選択ボタンのいずれかを押して再生するソース(音源)を選ぶ

選ばれたソース機器名が本体の表示窓に表示されます。

DVD	：DVDプレーヤーを選ぶとき
TV SOUND	：テレビを選ぶとき
VTR	：VTR端子に接続されたビデオ機器を選ぶとき
TAPE *	：カセットデッキを選ぶとき
CD *	：CDプレーヤーを選ぶとき
MD *	：MDレコーダーを選ぶとき
FM/AM *	：FM放送またはAM放送を選ぶとき

＊ これらのボタンを押すと、本機の電源も自動的に「入」になります(イチ押しボタン)。

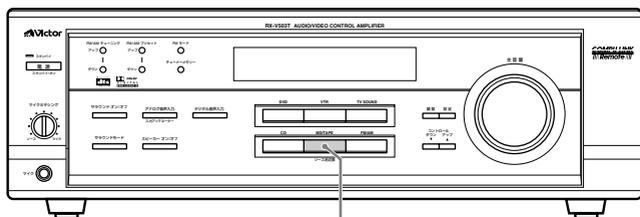
<お知らせ>

MD/TAPE端子に接続しているソース機器名を正しく「MD」または「TAPE」に設定してください(➡ 17 ページ参照)。

ソース機器の表示名を変更しなくても、ソース機器を使うことはできますが、以下のようなことが起こりますのでご注意ください。

- ソース機器を選んだときに、使っている機器とは異なる機器名が表示窓に表示される
  例：カセットデッキを使っているときに「MD」と表示される
- 「MD」の表示に設定していないと、デジタル音声を選べない(➡ 20 ページ参照)
- 「MD」や「TAPE」の表示を正しく設定していないと、「コンピュリンク・リモートコントロールシステム」(➡ 36 ページ参照)を正しく使うことができない

ソース(音源)機器の表示名を変更する

本機は、それぞれの端子に接続したソース機器を選んだとき、その機器名を表示窓に表示します。
MD/TAPE端子に接続したソース(音源)機器を選ぶと「MD」が表示されます(お買い上げ時の設定)。表示名を「TAPE」に変更するときは、以下の手順で行います。

本体のみ

「MD」から「TAPE」に変更するとき:

1 MD/TAPE(ソース名切換)ボタンを押す

2 ソース名切換(MD/TAPE)ボタンを押し続け、「ASSIGN* TAPE」を表示窓に表示させる

＊ ASSIGNとは・・・
Assignment(アサインメント)の略で「割当」という意味です。

機器名を「MD」に戻すには

「TAPE」に機器名を変更したときと同じ操作をします。
1. MD/TAPE(ソース名切換)ボタンを押す
2. ソース名切換(MD/TAPE)ボタンを押し続け、「ASSIGN MD」を表示窓に表示させる

<お知らせ>

ソース機器の表示名を変更しなくても、ソース機器を使うことはできますが、以下のようなことが起こりますのでご注意ください。
- 使っている機器とは異なる機器名が表示窓に表示される
  例:カセットデッキを使っているときに「MD」と表示される
- 「MD」の表示に設定していないと、デジタル音声を選べない(➡ 20 ページ参照)
- 「MD」や「TAPE」の表示を正しく設定していないと、「コンピュリンク·リモートコントロールシステム」(➡ 36 ページ参照)を正しく使うことができない

音量を調節する

本 体

主音量つまみを回す

右に回すと音が大きくなり、左に回すと小さくなります。

リモコン

アンプ主音量+/−ボタンを押す

アンプ主音量+ボタンを押すと、音が大きくなります。
アンプ主音量−ボタンを押すと、音が小さくなります。

<お知らせ>
- 音量は0(最小)から50(最大)の範囲で調節できます。

ご注意

次のような操作をする前には、必ず音量(ボリューム)を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。
- 再生する機器や放送局を選ぶとき
- 本機や接続した機器の電源を「入/切」するとき
- スピーカーオン/オフを切り換えるとき
- マイクをマイク端子に接続するとき、および外すとき

マイクを使ってアナウンスする

別売りのマイクをつないで、BGM*(バックグラウンドミュージック)を流しながらアナウンスすることができます。また、マイクの音だけにすることもできます。

店内放送、校内放送などにご活用いただけます。

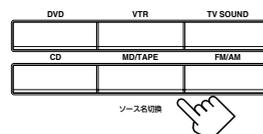
* BGMとしてご利用できるのは、アナログ音声入力に接続された機器のみです。

本体のみ

1 マイク(別売り)をマイク端子に接続する

マイク

- マイクを着脱するときは、音量を最小にしておきます。

2 希望のソース(音源)を再生する

- 主音量つまみを回して、音楽を適度な音量に調節する。

3 マイクミキシングつまみで音楽とマイクの音の音量バランスを調節する

18 ページに続く

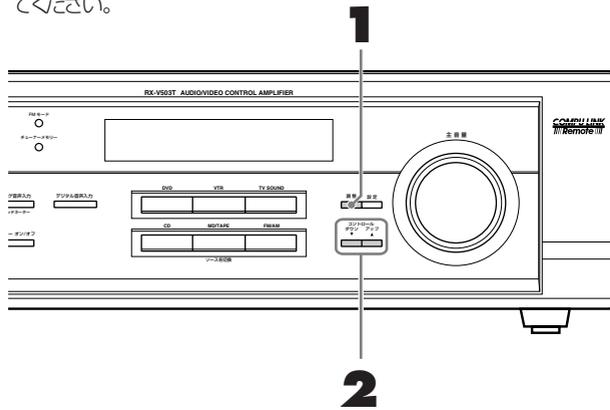
マイクの音だけにするには

1. 主音量つまみを最小にしたあと、マイクを接続し、マイクミキシングつまみを右(「マイク」側)に回す
2. 主音量つまみを回してマイクの音量を調節する

- マイク を使用しないときは、マイクミキシングつまみは「ソース」側にしておいてください。

フロントスピーカーのバランスを調節する

左右のフロントスピーカーの音のバランスがずれているときは、左右の音声出力のバランスを調節します。

- 操作が途中で解除されてしまったときは、もう一度手順**1**からやり直してください。

本体のみ

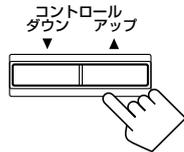
1 調整ボタンをくり返し押して「BALANCE」を表示させる

- 現在の設定値もあわせて表示されます。

BALANCE CNTR

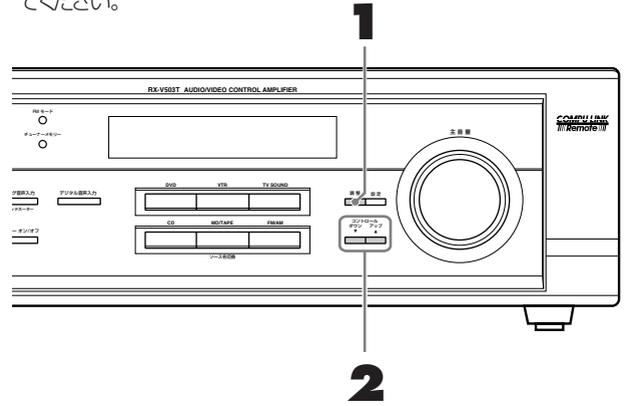
5秒以内に

2 コントロールアップ(▲)/ダウン(▼)ボタンを押してバランスを調節する

- コントロールアップ(▲)ボタンを押すと、左フロントスピーカーの音が小さくなります。
- コントロールダウン(▼)ボタンを押すと、右フロントスピーカーの音が小さくなります。
- 調節範囲:コントロールアップ(▲)
  CNTR～L-21
  コントロールダウン(▼)
  R-21～CNTR
- 「CNTR」はCENTERの略です。

コントロール
ダウン アップ
▼ ▲

フロントスピーカーの低音/高音を調節する

音の高低(低音と高音)をお好みに合わせて調節できます。(トーンコントロール)

- 操作が途中で解除されてしまったときは、もう一度手順**1**からやり直してください。

本体のみ

1 調整ボタンをくり返し押して「BASS」または「TREBLE」を表示させる

- 現在の設定値もあわせて表示されます。

BASS 0

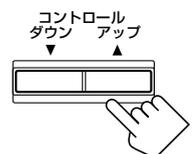
または

TREBLE 0

BASS :	低音の調節をするとき
TREBLE :	高音の調節をするとき

5秒以内に

2 コントロールアップ(▲)/ダウン(▼)ボタンを押して低音または高音の調節をする

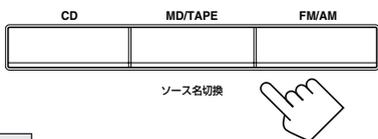
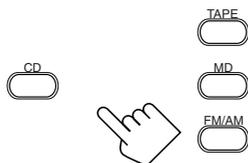
- コントロールアップ(▲)ボタンを押すと、2dBずつ低音または高音が増強されます。
- コントロールダウン(▼)ボタンを押すと、2dBずつ低音または高音が減衰します。
- 調節範囲:0±10dB

<お知らせ>

- バランス調節とトーンコントロール機能は 、フロントスピーカーの音に限り働きます。

映像と音声を別々に再生する

映像と音声のソース機器を別々に選ぶことができます。

ビデオやDVDなどの映像を見ているときに、ソース機器選択ボタンで聞きたいオーディオ機器を選ぶ

本　体

リモコン

音を一時的に消す(消音機能)

電話がかかってきたときなど、一時的に音を消すことができます。

本　体

スピーカーオン/オフボタンを押す

「SPEAKER OFF」と表示され、SPK表示が消えてスピーカーから音声が聞こえなくなります。
この設定は電源を切っても保持されます。

リモコン

消音ボタンを押す

「MUTING」と表示され、スピーカーから音声が聞こえなくなります。
この設定は電源を切ると解除されます。

消音機能を解除して音を出すには

もう一度、スピーカーオン/オフボタンまたは消音ボタンを押します。

録音・録画について

- 本機のMD/TAPE端子に接続しているMDレコーダーまたはカセットデッキを使って録音ができます。また、VTR端子に接続しているビデオデッキを使って録音・録画ができます。
- 録音・録画中に音量を変えても、録音レベルには影響しません。

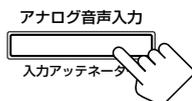
<お知らせ>

- トーンコントロール(BASS/TREBLE)、DAP、およびサラウンド効果を録音することはできません。

入力信号のレベルを調節する

再生機器の入力信号が大きすぎると、DSPを使って音声を再生しているときに音がひずむことがあります。このようなときは入力信号のレベルを下げることができます。

本体のみ

入力アッテネーター(アナログ音声入力)ボタンを3秒以上押して表示窓にINPUT ATT表示を点灯させる

- ボタンを3秒以上押すごとに、設定が以下のように切り換わります。

INPUT ATT ON ：音がひずむときに選びます。「INPUT ATT ON」が選ばれているときは、INPUT ATT表示が表示窓に点灯します。

↕

INPUT NORMAL ：通常はこの設定にしておきます。

<お知らせ>

- デジタル信号入力時には、この機能は働きません。

操作の設定を記憶させる(レジューム機能)

ソース(音源)ごとに最適な操作の設定を記憶させておくことができます。
この機能により、ソース(音源)を変更するごとに操作の設定を変える必要がありません。記憶されている設定が自動的に呼び出されます。

- ソース(音源)ごとに、次の内容を記憶させておくことができます。

	参照ページ
左右のフロントスピーカーのバランス	18
入力信号のレベル	19
サブウーハーの出力レベル	22
DSPの設定 ・サラウンド ・DAP	 32～35 32～35
左右のフロントスピーカーの低音／高音	18

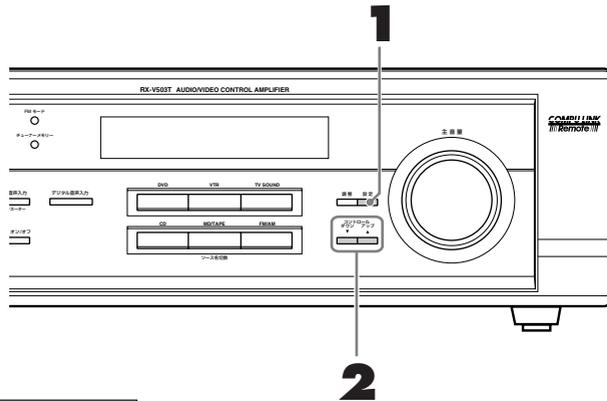
<お知らせ>

- FM放送またはAM放送を選んでいるときは、それぞれのバンドに対して別々に記憶させることができます。
- 操作の設定はソース(音源)を切り換えたときなどに記憶されます。
- 記憶された内容は、電源コードを抜いても数日間保持されます。

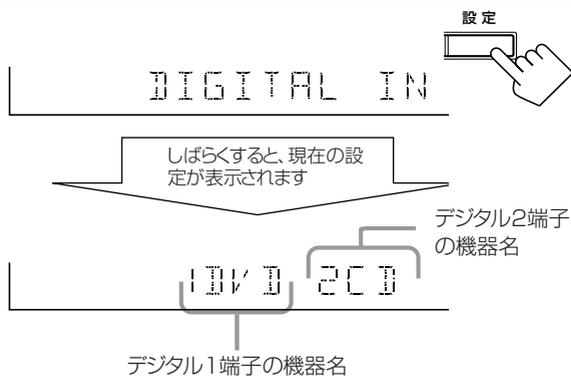
デジタルの設定をする

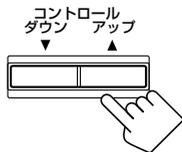
デジタル入力端子に接続した機器名を設定する

デジタル入力端子（デジタル1、2）に、それぞれどのような機器を接続しているのかを設定します。

• 操作が途中で解除されてしまったときは、もう一度手順**1**からやり直してください。

本体のみ

1 設定ボタンをくり返し押して「DIGITAL IN」を表示させる

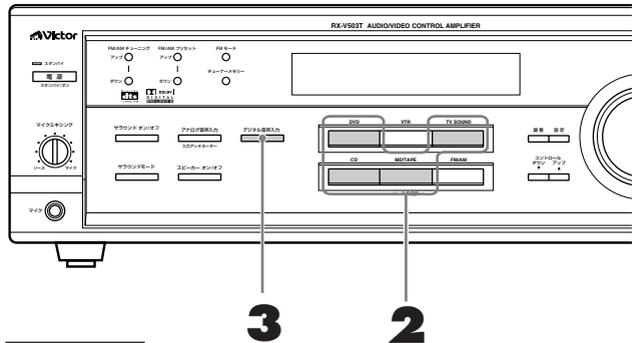
しばらくすると、現在の設定が表示されます

2 コントロールアップ(▲)/ダウン(▼)ボタンを押して機器名を選ぶ

• コントロールアップ(▲)ボタンを押すごとに、機器名の組み合わせが以下のように表示されます。コントロールダウン(▼)ボタンを押すと逆の順番で表示されます。

1DVD 2CD → 1DVD 2TV → 1DVD 2MD →
1CD 2DVD → 1CD 2TV → 1CD 2MD →
1TV 2DVD → 1TV 2CD → 1TV 2MD →
1MD 2DVD → 1MD 2CD → 1MD 2TV →
（はじめに戻る）

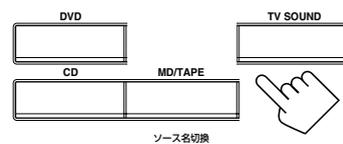
<お知らせ>

• お買い上げ時には、デジタル入力端子は、それぞれ以下の機器を接続するように設定されています。
デジタル1（DVD）端子（同軸）　：　DVDプレーヤー
デジタル2（CD）端子（光）　　：　CDプレーヤー

デジタル音声を選ぶ

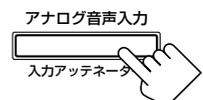
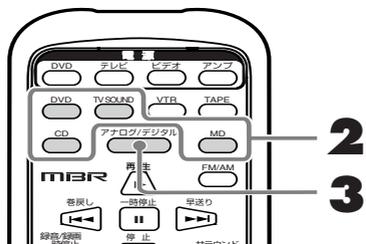
12 ページのようにデジタル機器（CDプレーヤー、MDレコーダー、DVDプレーヤー、BSデジタルチューナー内蔵テレビ）を、デジタル入力端子に接続しているときは、デジタル音声が選べます。お買い上げ時には、アナログ音声が聞こえるように設定されています。

本　体

1 デジタル入力端子に接続した機器名を設定する（左記参照）

2 アナログ音声からデジタル音声に変更したいソース機器選択ボタン（DVD、TV SOUND、CD、MD/TAPEのいずれか）を押す

3 デジタル音声入力ボタンを押してデジタル音声を選ぶ

• 表示窓に「DIGITAL AUTO」と表示され、DIGITAL AUTO表示が点灯します。
デジタル信号を本機が自動的に判別します。

アナログ音声に戻すには

上の手順**3**で、アナログ音声入力（入力アッテネーター）ボタンを押します。

• 表示窓のANALOG表示が点灯します。ANALOG表示はアナログ音声方式を選択時には常時点灯しています。
• 接続したデジタル機器名を正しく設定してください。
詳しくは、同ページの**「デジタル入力端子に接続した機器名を設定する」**を参照してください。

リモコン

1 デジタル入力端子に接続した機器名を設定する(➡ 20 ページ参照)

2 アナログ音声からデジタル音声に変更したいソース機器選択ボタン(DVD、TV SOUND、CD、MDのいずれか)を押す

3 アナログ／デジタルをくり返し押して音声方式を選ぶ

- 現在選択しているモードが表示され、ボタンを押すごとに次のように音声方式が変わります。

アナログ／デジタル

DIGITAL AUTO ⟷ ANALOG

- デジタル音声をお聞きになるには、「DIGITAL AUTO」を選びます。表示窓のDIGITAL AUTO表示が点灯します。デジタル信号を本機が自動的に判別します。
- **アナログ音声に戻すには、**「ANALOG」を選びます。表示窓のANALOG表示が点灯します。
  ANALOG表示はアナログ音声方式を選択時には常時点灯しています。

デジタル信号を受信中は・・・

判別した受信中の信号を表示窓のデジタル信号表示でお知らせします。

LINEAR PCM : CDやDVDなどに使われているリニアPCM信号(2チャンネル)を受信したときに点灯します。

DD DIGITAL : DVDなどに使われているドルビーデジタル信号を受信したときに点灯します。

dts : DVDなどに使われているDTS信号を受信したときに点灯します。

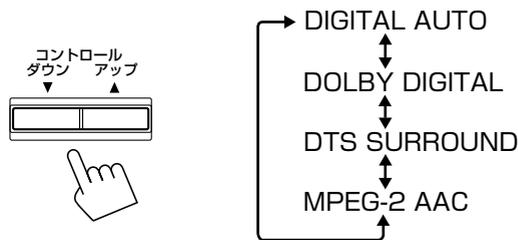
MPEG-2 AAC : BSデジタル放送などに使われているMPEG-2 AAC信号を受信したときに点灯します。

「DIGITAL AUTO」が正常に働かないときは

最初の数秒間の音が出ない、サーチまたはスキップしているときにスピーカーから雑音が聞こえてくるようなときは、デジタル音声固定モードを選んでください。

本体のみ

左記の手順3で、表示窓に「DIGITAL AUTO」が表示されているときに、コントロールアップ(▲)またはダウン(▼)ボタンを押してデジタル音声固定モード音声方式を選ぶ

- 押すごとに、次のようにデジタル信号方式が変わります。

入力されているデジタル信号にあわせて、正しい固定モードを選んでください。選ばれたデジタル信号表示が点灯します。

- 現在選択中のデジタル固定モードと、実際に入力されているデジタル信号が異なるときは、選択中のデジタル信号表示が点滅します。

例:DTS SURROUND固定時に入力された信号が・・・
一致すると: dts が点灯します。
異なると　: dts が点滅します。

スピーカー表示/音声チャンネル

再生しているスピーカーと音声信号のチャンネルを表示します。

SPK表示

- 本体でスピーカー「入」に設定のとき点灯し、スピーカー「切」に設定のとき消灯します。

スピーカー表示

- サブウーハーの設定を「YES」にしているときは(22 ページ)、「S.WFR」表示が点灯します。
- サブウーハー以外のスピーカーは、出力するスピーカー表示のみが点灯します。

入力信号表示

入力されている音声信号を表示します。

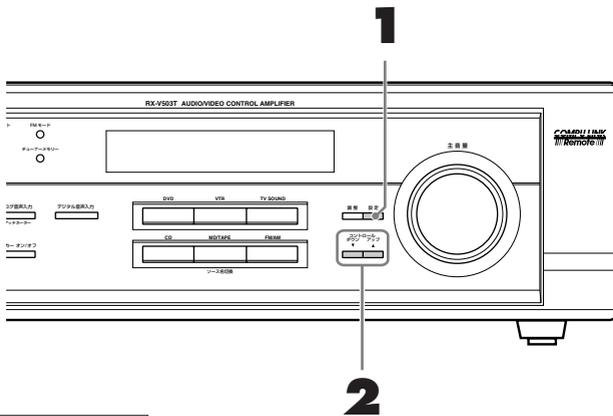
- L　：左フロントチャンネル
- R　：右フロントチャンネル
- C　：センターチャンネル
- LS　：左サラウンドチャンネル
- RS　：右サラウンドチャンネル
- S　：モノラルサラウンドチャンネル
- LFE　：LFEチャンネル

基本操作

サブウーハーの設定をする

サブウーハーの有無を設定する

サブウーハーをご使用になるとき「ＳＵＢＷＯＯＦＥＲ」を「ＹＥＳ」）、ご使用にならないとき（「ＳＵＢＷＯＯＦＥＲ」を「ＮＯ」）にそれぞれ設定します。

• 操作が途中で解除されてしまったときは、もう一度手順**1**からやり直してください。

本体のみ

1 設定ボタンをくり返し押して「SUBWOOFER」を表示させる

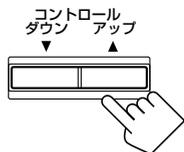
• 現在の設定値もあわせて表示されます。

5秒以内に

2 コントロールアップ（▲）/ダウン（▼）ボタンを押して「ＹＥＳ」または「NO」を選ぶ

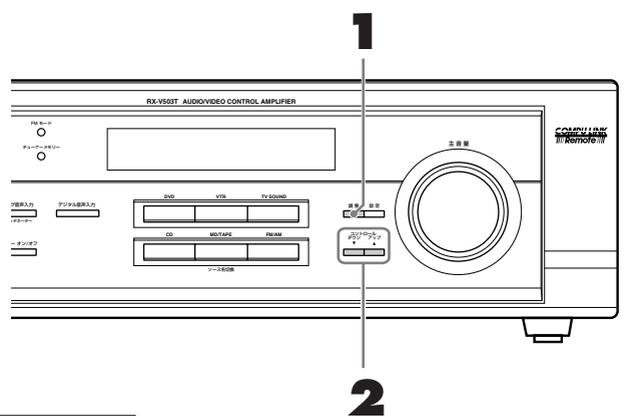
• 押すごとに、「YES」と「NO」が交互に表示されます。

YES	サブウーハーを使うとき
NO	サブウーハーを使わないとき

• お買い上げ時の設定：「NO」

サブウーハーの出力レベルを調節する

サブウーハーの出力レベルは、サブウーハーを使って（「SUBWOOFER」が「YES」に設定して）いるときに限り、調節できます。

• 操作が途中で解除されてしまったときは、もう一度手順**1**からやり直してください。

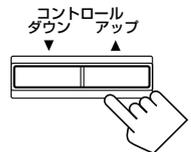
本　体

1 調整ボタンをくり返し押して「SUBWFR」を表示させる

• 現在の設定値もあわせて表示されます。

SUBWFR 0

5秒以内に

2 コントロールアップ（▲）/ダウン（▼）ボタンを押してサブウーハーの出力レベルを調節する

• コントロールアップ（▲）ボタンを押すと、1dBずつ重低音が増強されます。
• コントロールダウン（▼）ボタンを押すと、1dBずつ重低音が減衰します。
• 調節範囲：0dB±10dB

リモコン

1. **サウンドボタンを押す**

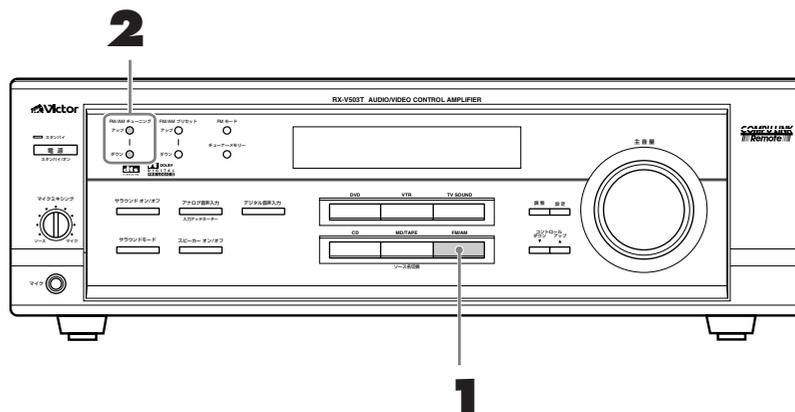
数字キーを使ってサブウーハーの出力レベルが調節できるようになります。

2. **サブウーハー＋/－ボタンを押してサブウーハーの出力レベルを調節する（調節範囲：0dB±10dB）**

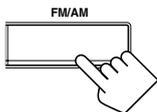
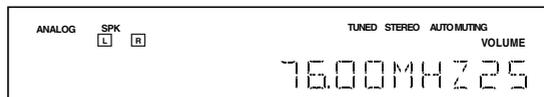
ラジオを聞く

本機はFM/AMチューナーを内蔵しています。

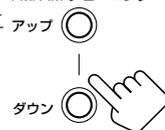
FM放送やAM放送を受信する

• 操作が途中で解除されてしまったときは、もう一度手順**2**からやり直してください。

本体のみ

1 FM/AMボタンを押して受信バンド（FMまたはAM）を選ぶ

• 押すごとに、FM放送またはAM放送になります。最後に選ばれていた放送局を受信します。
• リモコンのFM/AMボタンを押しても受信バンドが選べます。

例：FM放送のとき（お買い上げ時の状態）

2 FM/AMチューニングアップ /ダウンボタンを押して放送局（周波数）を選ぶ

マニュアル選局

• FM/AM チューニングアップボタンを押すと、周波数が上がり、FM/AM チューニングダウンボタンを押すと、周波数が下がります。

FM/AM チューニング
アップ
ダウン

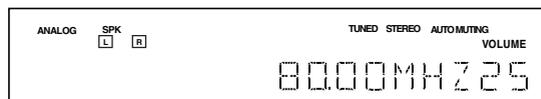
押すごとに次のように変わります。

FM放送	0.05MHZずつ	：76.00～108.00MHZ
AM放送	9kHZずつ	：531～1,629kHZ

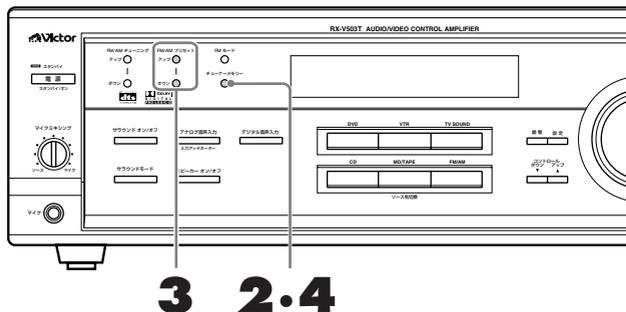
オート選局

• FM/AM チューニングアップボタンまたはFM/AM チューニングダウンボタンを1秒以上押し続け、周波数が変わりだしたら指を離します。自動的に放送局を探し、受信すると止まります。
• 放送を受信するとTUNED表示が表示窓に点灯します。

例：FM放送のとき

基本操作

放送局を記憶させる

一度放送局を記憶させておくと、次からは簡単に放送局を選ぶことができます。**FM放送を30局、AM放送を15局まで記憶させることができます。**

- 操作が途中で解除されてしまったときは、もう一度手順**2**からやり直してください。

本体のみ

1 記憶させたい放送局を選ぶ（➔ 23 ページ参照）

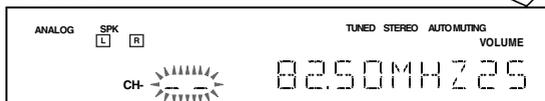
（➔ 23 ページ参照）

FMの放送局を記憶させるときは、FM放送の受信モードも同時に記憶させることができます（右の説明参照）。

2 チューナーメモリーボタンを押す

表示窓のCHが点灯し、「＿ ＿」（プリセット番号の表示位置）が約5秒間点滅します。

チューナーメモリー

ANALOG SPK L R TUNED STEREO AUTO MUTING VOLUME
CH- ＿ ＿ 82.50MHZ 25

5秒以内に

3 FM/AMプリセットアップ/ダウンボタンを押してプリセット番号を選ぶ

- FM放送：プリセット1～30
- AM放送：プリセット1～15

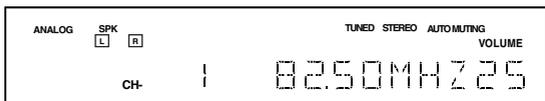
<お知らせ>

- プリセット番号の選択は、リモコンの数字キーでもできます。数字キーを使うときは、必ずFM/AMボタンを先に押してから数字キーを押してください。

5秒以内に

4 選んだプリセット番号が点滅しているときにチューナーメモリーボタンを押す

プリセット番号の点滅が止まり、選んだ放送局がその番号に記憶されます。
例：プリセット番号1のとき

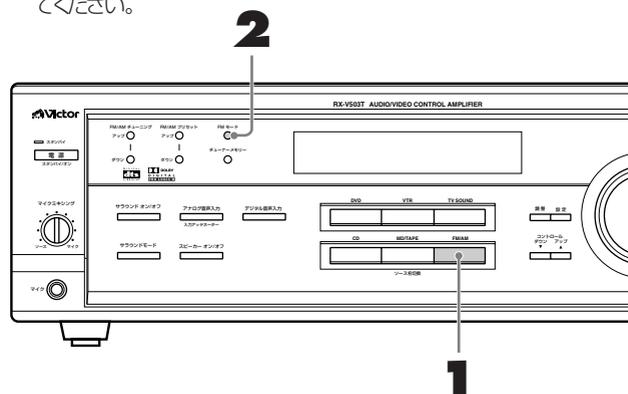
ANALOG SPK L R TUNED STEREO AUTO MUTING VOLUME
CH- 1 82.50MHZ 25

5 他の放送局も記憶させるときは、手順**1**から**4**をくり返す

記憶させた放送局を変更・訂正するには

同じプリセット番号に新しい放送局を記憶させると、もとの放送局の記憶は消えます。

FM放送の受信モードを選ぶ

FMステレオ放送が雑音で聞きにくいときは、受信モードを変更することができます。

- FM受信モードは放送局ごとに記憶させることもできます。
- FM放送の受信中に受信モードが変更できます。
- 操作が途中で解除されてしまったときは、もう一度手順**2**からやり直してください。

本体のみ

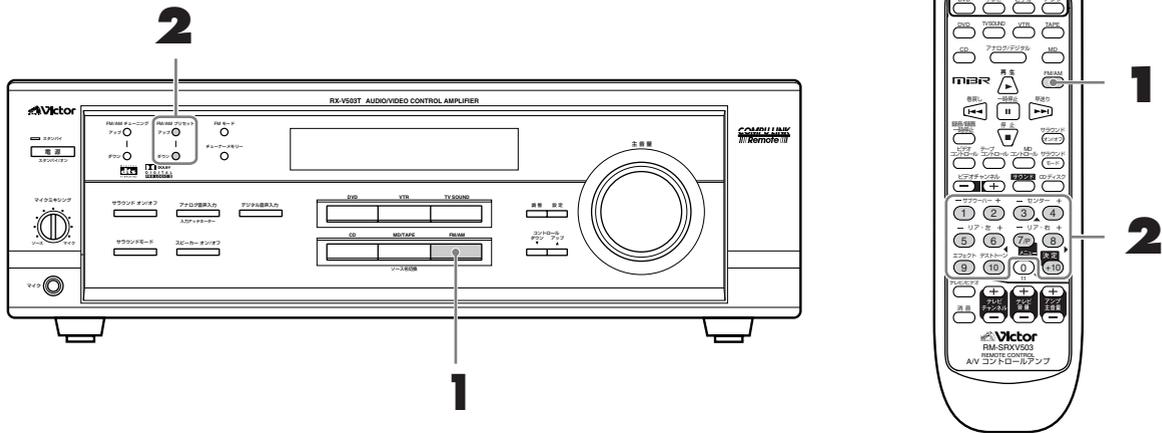
1 FM/AMボタンを押してFMを選ぶ

2 FMモードボタンを押して「AUTO」または「MONO」を表示させる

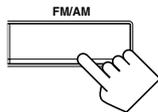
- 押すごとに、FM受信モードが「AUTO」または「MONO」に切り換わり、表示窓に表示されます。

モード	こんなとき
AUTO	FMステレオ放送のときはステレオで、モノラル放送のときはモノラルで聞こえてきます。このモードにすると、「サー」という選局中の雑音を消すことができます。通常は「AUTO」でお使いください。 「AUTO」選択中は、AUTO MUTING表示が表示窓に点灯します。
MONO	FMステレオ放送が雑音で聞きにくいときに選びます。音声はモノラルになります。 AUTO MUTING表示が表示窓から消えます。

記憶してある放送局を選ぶ（プリセット選局）

- 操作が途中で解除されてしまったときは、もう一度手順**2**からやり直してください。

本　体

1 FM/AMボタンを押す

- 最後に選ばれていた放送局を受信します。
- 押すごとに、受信バンドがFM放送、またはAM放送に切り換わります。

2 FM/AMプリセットアップ/ダウンボタンを押してプリセット番号を選ぶ

- FM/AMプリセットアップボタンを押すと、プリセット番号が大きくなるほうに選べます。
- FM/AMプリセットダウンボタンを押すと、プリセット番号が小さくなるほうに選べます。

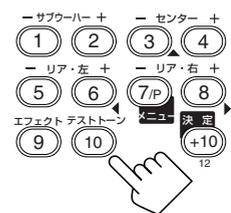
リモコン

1 FM/AMボタンを押す

- 最後に選ばれていた放送局を受信します。
- 押すごとに、受信バンドがFM放送、またはAM放送に切り換わります。

2 数字キーを押してプリセット番号を選ぶ

（例）

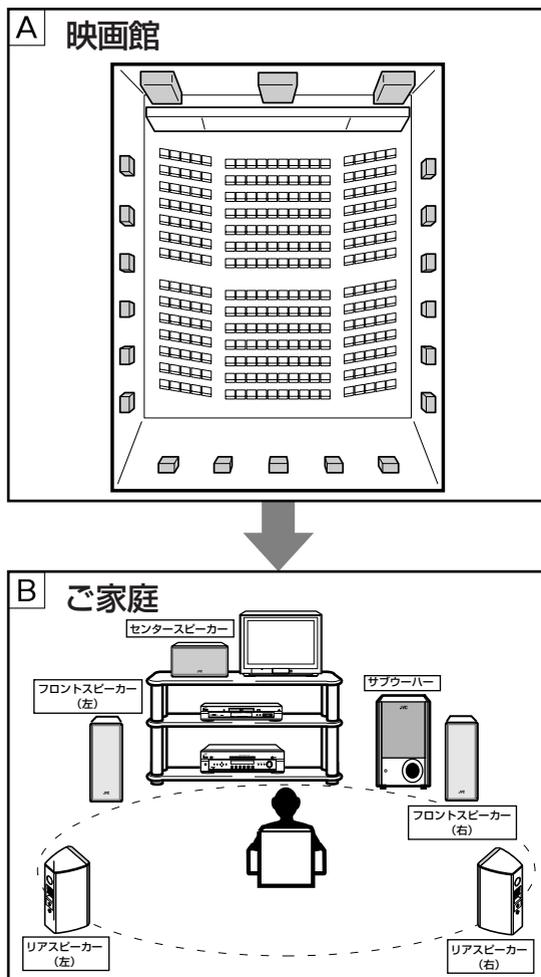
- プリセット番号5を選ぶには：
  (5)を押す。
- プリセット番号15を選ぶには：
  (+10)➔(5)と押す。
- プリセット番号20を選ぶには：
  (+10)➔(10)と押す。
- プリセット番号30を選ぶには：
  (+10)➔(+10)➔(10)と押す。

<お知らせ>

- 数字キーを使用するときは、必ずリモコンのFM/AMボタンを先に押してから数字キーを押してください。

サラウンドを使う

サラウンドとは

映画館には、計算された効果音で臨場感を再現するために、壁に多くのスピーカーを配置しています。あらゆる方向から音声が聞こえてくるように設計されています。**(図A)**
客席を包みこむように多くのスピーカーを配置することによって、音の定位感を飛躍的に高めることができます。

本機は、5つのスピーカーとサブウーハーを使うことで、映画館そのままの臨場感をご家庭で再現することを可能にしました。**(図B)**

本機では、内蔵のDSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）により次のサラウンドをお楽しみいただけます。

- **マルチチャンネルサラウンド（ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンド、MPEG-2 AACサラウンド）**
- **ドルビープロロジックII（プロロジックIIムービー、プロロジックIIミュージック）**
- **DAP（LIVE CLUB、DANCE CLUB、HALL、PAVILION）**
- **オールチャンネルステレオ（ALL CH STEREO）**

■ ドルビーデジタル *1

DVDに使われているマルチチャンネル対応の音声圧縮方式のひとつです（このようなソフトには マークが記載されます）。
ドルビーデジタル5.1chの場合、フロント左右、センター、リア左右、サブウーハーの5.1ch（サブウーハーは0.1chと数えます）の各チャンネルを完全に独立した音声として再生するので、チャンネル間の干渉も少なく、より優れた音質でより立体的なサラウンドが再現できます。
本機にはドルビーデジタルデコーダーが内蔵されていますので、ドルビーデジタルの映像ソフトが再生できます。

- ドルビーデジタル録音のソフトを再生するには、お使いになる機器を本機背面のデジタル入力端子に接続してください。
（➡ 12 ページ）
- ドルビーデジタル信号が検出されると、表示窓の DIGITAL 表示が点灯します。

■ DTSデジタルサラウンド *2

DTSデジタルサラウンドは、CD、LD、DVDなどに使われています（このようなソフトには マークが記載されています）。
ドルビーデジタル同様5.1chのデジタル音声フォーマットですが、音声圧縮率を低く設定してあるため、厚みのある、より高音質な再生が可能となります。
本機にはDTSサラウンドデコーダーが内蔵されていますので、DTSデジタルサラウンドの映像ソフトが再生できます。

- DTSサラウンド録音のソフトを再生するには、お使いになる機器を本機背面のデジタル入力端子に接続してください。
（➡ 12 ページ）
- DTS信号が検出されると、表示窓に dts 表示が点灯します。

■ MPEG-2 AAC（Advanced Audio Coding）サラウンド

MPEG-2オーディオの標準方式のひとつで、BSデジタル放送で採用されている音声符合化規格です。
低ビットレートで高音質を確保できる点が特長で、番組内容により5.1chのマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。

- AACサラウンドの音声を聞くには、お使いになる機器を本機背面のデジタル入力端子に接続してください。
（➡ 12 ページ）
- MPEG-2 AAC信号が検出されると、表示窓にMPEG-2 AAC表示が点灯します。

米国パテントナンバー

5,848,391; 5,291,557; 5,451,954;
5,400,433; 5,222,189; 5,357,594;
5,752,225; 5,394,473; 5,583,962;
5,274,740; 5,633,981; 5,297,236;
4,914,701; 5,235,671; 07/640,550;
5,579,430; 08/678,666; 98/03037;
97/02875; 97/02874; 98/03036;
5,227,788; 5,285,498; 5,481,614;
5,592,584; 5,781,888; 08/039,478;
08/211,547; 5,703,999; 08/557,046;
08/894,844

■ ドルビープロロジックII *3

本機にはドルビープロロジックIIデコーダーが内蔵されています。ドルビーサラウンド方式で記録された2ch音声はもちろん、通常の2ch音声も5.1ch音声にまで拡張することができます。また、従来のドルビープロロジック方式に比べて、リアスピーカーの高音域も再生することができます。これにより、立体感・包囲感のあるサラウンドがお楽しみいただけます。
ドルビープロロジックIIには次の2つのモードがあります。

プロロジックII ムービー

DOLBY SURROUND マークのついたドルビーサラウンド方式で記録された2ch音声の映像ソフトの再生に向いています。DVDソフトなどのマルチチャンネル5.1ch音声に近い音場での再生をお楽しみいただけます。

プロロジックIIミュージック

2ch音声の音楽ソフトの再生に向いています。音楽ソフトの再生に適した広がりと奥行きを持った音場をお楽しみいただけます。さらに、パノラマコントロールによって、後方から回り込んでくるような効果を強調することができます。

- ドルビーサラウンド方式で記録された音声も含めて、すべての2ch音声に対して有効です。
- ドルビープロロジックIIデコーダーが働いていると、表示窓に PRO LOGIC II表示が点灯します。

■ DAP

コンサートホールやライブハウスなどで聞く音は、音源から直接耳に届く音(**直接音**)と天井や壁などに反射してから耳に届く音(**初期反射音**)、そして、何回も反射を繰り返してから耳に届く音(**残響音**)によって構成されています。これらの反射音/残響音は、リスナーと天井、壁の距離によって様々な遅延時間をもった音となり、コンサートなどでは、直接音とこれらの反射音/残響音によって、音場が作り出されています。
本機に搭載されているDAPモードは、これらの反射音や残響音をデジタル信号処理により創り出しコンサートホールやライブハウスなどの臨場感を再現します。

本機では次のDAPモードをお楽しみいただけます。

- LIVE CLUB(ライブ クラブ) : 天井の低いライブハウスにいるような雰囲気です。
- DANCE CLUB(ダンス クラブ) : ディスコにいるような雰囲気です。
- HALL(ホール) : ボーカルがはっきりします。コンサートホールにいるような雰囲気です。
- PAVILION(パビリオン) : 天井の高い展示会場にいるような雰囲気です。

音場の構成

- DAPはアナログ2ch音声やリニアPCMデジタル音声で録音されたソフトを再生するときに音響効果を加え、臨場感を出します。
- DAPをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にリアスピーカーを接続・設定する必要があります(センタースピーカーは特に必要ではありません。センタースピーカーを接続していても音声は出ません)。
- DAPモードを選んでいるときは、効果の度合いを調節できます。(➡ 33と35ページ参照)
- DAPが選ばれているときは、表示窓のDSP表示が点灯します。

■ オールチャンネルステレオ(ALL CH STEREO)

接続・設定されたすべてのスピーカーを使って、より広い範囲でステレオ音声をお楽しみいただけます。

- オールチャンネルステレオはアナログ2ch音声やリニアPCMデジタル音声で録音されたソフトを再生するときに使うことができます。
- フロントスピーカーの他にリアスピーカーを接続・設定する必要があります。
- オールチャンネルステレオが選ばれているときは、表示窓のDSP表示が点灯します。

<お知らせ>

- サラウンドをお使いになるときは、以下の項目をあらかじめ正しく設定しておいてください。
  スピーカーサイズ(➡ 29ページ)
  スピーカーの距離(➡ 29ページ)
  スピーカーの出力レベル(➡ 33と35ページ)
- **それぞれの信号と、それに対応するサラウンドについては、入力信号/サラウンド対応表(➡ 44ページ参照)をご参照ください。**

音質調節とサラウンド設定

*1、*3 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、PRO LOGIC及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
*2 本機はデジタルシアターシステムズ社からの実施権に基づき製造されています。DTS及びDTS Digital Surround、DTSデジタルサラウンドは、デジタルシアターシステムズ社の商標です。

サラウンドを使うためのスピーカー配置

お持ちのスピーカーの数に応じて、お使いになれるサラウンドは異なります。
- フロントスピーカーのみを接続しているときは、サラウンドはお楽しみいただけません。
- スピーカーの設定については 29 〜 30 ページを参照してください。

スピーカーの配置	お使いになれるサラウンド
5スピーカー 左フロントスピーカー / テレビ / センタースピーカー / 右フロントスピーカー 左リアスピーカー / リスニングポジション / 右リアスピーカー **4スピーカー** 左フロントスピーカー / テレビ / 右フロントスピーカー 左リアスピーカー / リスニングポジション / 右リアスピーカー	① サラウンドオン/オフボタンを押します。 本体 サラウンド オン/オフ　リモコン サラウンド オン/オフ **<マルチチャンネル音声が再生されているとき>** 信号が自動判別され、ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドまたはMPEG-2 AACサラウンドが選ばれます。 **<2ch音声が再生されているとき>** 前回選んだサラウンドモードが表示されます。 ボタンを押すごとにサラウンドは「入」⟺「切」します。 ② サラウンドモードボタンを押します。 本体 サラウンドモード　リモコン サラウンド モード ボタンを押すごとにサラウンドモードは以下のように変わります。 DIGITAL AUTO LINEAR PCM SPK L R S.WFR PRO LOGIC II　PL II MUSIC PL II MOVIE → PL II MUSIC → LIVE CLUB → DANCE CLUB → HALL → PAVILION → ALL CH STEREO → PL II MOVIE **<お知らせ>** • マルチチャンネルサラウンドについては、サラウンド「入」時に自動判別されますので、サラウンドモードを選ぶことはできません。 • **それぞれの信号と、それに対応するサラウンドについては、入力信号/サラウンド対応表(➡ 44 ページ参照)をご参照ください。**
3スピーカー 左フロントスピーカー / テレビ / センタースピーカー / 右フロントスピーカー リスニングポジション	① サラウンドオン/オフボタンを押します。 本体 サラウンド オン/オフ　リモコン サラウンド オン/オフ **<マルチチャンネル音声が再生されているとき>** 信号が自動判別され、ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドまたはMPEG-2 AACサラウンドが選ばれます。 **<2ch音声が再生されているとき>** 前回選んだサラウンドモードが表示されます。 ボタンを押すごとにサラウンドは「入」⟺「切」します。 ② サラウンドモードボタンを押します。 本体 サラウンドモード　リモコン サラウンド モード ボタンを押すごとにサラウンドモードは以下のように変わります。 DIGITAL AUTO LINEAR PCM SPK L R S.WFR PRO LOGIC II　PL II MUSIC PL II MOVIE ⟷ PL II MUSIC **<お知らせ>** • マルチチャンネルサラウンドについては、サラウンド「入」時に自動判別されますので、サラウンドモードを選ぶことはできません。

接続しているスピーカーを正しく設定して、サラウンドの音質効果を最大限に引き出します。

スピーカーのサイズを設定する

使用するスピーカーの大きさに合わせてサイズを設定します。

- スピーカーを変えたときは、新たにスピーカーのサイズを設定し直してください。
- 操作が途中で解除されてしまったときは、もう一度手順**1**からやり直してください。

本体のみ

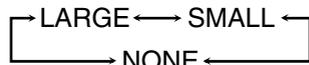
1 設定ボタンをくり返し押してサイズを設定するスピーカーを選ぶ

- 「FRNT SP」、「CNTR SP」、「REAR SP」のいずれかを表示させます。

FRNT SP	：フロントスピーカー
CNTR SP	：センタースピーカー
REAR SP	：リアスピーカー

2 コントロールアップ(▲)/ダウン(▼)ボタンを押してスピーカーのサイズを選ぶ

- 押すごとに、次のように設定が変わります。

LARGE ⟷ SMALL → NONE → LARGE

LARGE	：大型や中型のスピーカーを接続したとき
SMALL	：小型のスピーカーを接続したとき
NONE	：スピーカーを接続しないとき

3 他のスピーカーについても設定するときは、手順1と2をくり返す

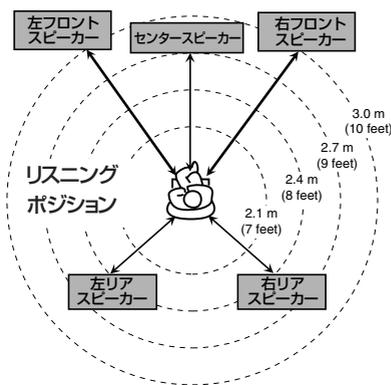
<お知らせ>

- **スピーカーの大きさについて**
  目安として、お使いのスピーカーに内蔵されている、コーンスピーカーの口径が12cm以上なら「LARGE」を選び、12cm以下なら「SMALL」を選んでください。
- サブウーハーを「NO」に設定しているときは、フロントスピーカーは「LARGE」しか選べません。そのときサブウーハーの音声は、フロントスピーカーから再生されます。
- フロントスピーカーを「NONE」に設定することはできません。
- フロントスピーカーを「SMALL」に設定すると、センタースピーカーやリアスピーカーを「LARGE」に設定することはできません。

スピーカーの距離を設定する

ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドや、MPEG-2 AACサラウンドで効果的な音場を構成するには、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離が同じであることが理想的です。本機では、リスニングポジションから各スピーカーまでの実際の距離を設定すると、あたかもすべてのスピーカーを等距離に設置したかのような音場を創り出すことができます。

- 設定できる距離は、0.3 m(1 feet)から9.0 m(30 feet)までで、単位は0.3 m(1 feet)きざみになっています。
- フロントスピーカーとリアスピーカーについて、左右のスピーカー距離を別々に設定することはできません。

例) 下図のようにスピーカーを置いたときは、フロントスピーカーを「3.0 m」に、センタースピーカーを「2.7 m」に、リアスピーカーを「2.4 m」に設定します。

最初に、距離の単位を決めます。

- 操作が途中で解除されてしまったときは、もう一度手順**1**からやり直してください。

本体のみ

1 設定ボタンをくり返し押して「UNIT」を表示させる

設 定

2 コントロールアップ(▲)/ダウン(▼)ボタンを押して設定する距離の単位を選ぶ

- 押すごとに、次のように設定が変わります。

METER ⟷ FEET

METER	：スピーカーまでの距離をメートルで表示
FEET	：スピーカーまでの距離をフィートで表示

- お買い上げ時の設定：「METER」

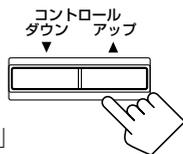
30 ページに続く

スピーカーの距離を設定する(つづき)

3 設定ボタンをくり返し押して設定するスピーカーを表示させる

FRNT DIS	:フロントスピーカーの距離を設定するとき
CNTR DIS	:センタースピーカーの距離を設定するとき
REAR DIS	:リアスピーカーの距離を設定するとき

4 コントロールアップ(▲)/ダウン(▼)ボタンを押して設定する距離を選ぶ

- 「0.3m(1 feet)」から「9.0m(30 feet)」の範囲で設定できます。

5 他のスピーカーについても設定するときは、手順3と4をくり返す

クロスオーバー周波数を選ぶ

小型スピーカーでは低音をよく再生できないことがあります。本機では、フロントスピーカー、センタースピーカー、リアスピーカーのいずれかに小型のスピーカーが使われているときに、その低音要素を他の大型スピーカーへ自動的に振り分けます。
この機能を正しく動作させるために、小型スピーカーのサイズに応じて、クロスオーバー周波数を選びます。

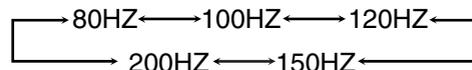
- 操作が途中で解除されてしまったときは、もう一度手順**1**からやり直してください。

本体のみ

1 設定ボタンをくり返し押して「CROSS」を表示させる

CROSS 100HZ

2 コントロールアップ(▲)/ダウン(▼)ボタンを押してスピーカーに合ったクロスオーバー周波数を選ぶ

- 押すごとに、次のように周波数が変わります。

- お買い上げ時の設定値:「100HZ」
- クロスオーバー周波数は、お好みに応じて調節してください。

<お知らせ>

- すべてのスピーカーのサイズを「LARGE」に設定しているときは、この機能は働きません。スピーカーの設定については29 〜 30 ページを参照してください。

低音域がひずむときは

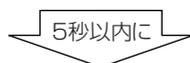
ドルビーデジタルやDTSデジタルサラウンドを使っているときに、低音がひずむ場合は、以下の設定を行います。

- 操作が途中で解除されてしまったときは、もう一度手順**1**からやり直してください。

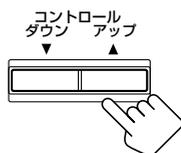
本体のみ

1 **設定ボタンをくり返し押して「LFE ATT*」を表示させる**

＊ Low(ロー) Frequency(フリケンシー) Effect(エフェクト) Attenuator(アッテネーター)の略：低音域減衰器

LFE ATT 0dB

2 **コントロールアップ(▲)/ダウン(▼)ボタンを押して設定値を選ぶ**

- 押すごとに、次のように設定が変わります。

0dB ←→ –10dB

0dB	：通常はこの設定にしておきます
–10dB	：低音がひずむときに設定します

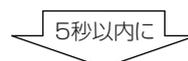
ダイナミックレンジを調節する

ダイナミックレンジ(最大の音声信号と最小の音声信号の差)を圧縮することができます。この機能は、夜間にサラウンドをお楽しみいただくときなどに調節してください。

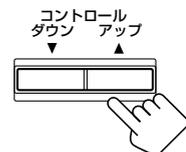
- この機能は、ドルビーデジタルの音声を再生しているときに限り働きます。
- 操作が途中で解除されてしまったときは、もう一度手順**1**からやり直してください。

本体のみ

1 **設定ボタンをくり返し押して「D_COMP(コンプレッション)」を表示させる**

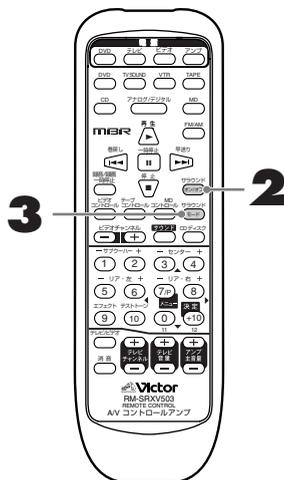
D_COMP MID

2 **コントロールアップ(▲)/ダウン(▼)ボタンを押して圧縮のレベルを選ぶ**

- 押すごとに、次のように設定が変わります。

→ OFF ←→ MID ←→ MAX ←

OFF	：ダイナミックレンジはそのままで、サラウンドを楽しみたいとき
MID	：ダイナミックレンジを少し圧縮したいとき(お買い上げ時の設定)
MAX	：ダイナミックレンジの圧縮を最大にしたいとき(夜間など)

サラウンドを使って再生する(リモコン)

サラウンドを使って再生をします。さらに、リモコンを使って音の調節をします。

- サラウンドをお楽しみいただくときは、デジタル音声/アナログ音声を正しく選んでください。(➡ 20 ページ参照)
- スピーカーの設定については 29 〜 30 ページを参照してください。
- サラウンドモードの選択やスピーカーの出力の調節は、ソース(音源)ごとに記憶されます。
- パノラマ効果の調節をするときは、本体ボタンで調節をしてください。

リモコン

1 映像や音楽ソフトを再生する

• ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドまたはMPEG-2 AACサラウンドの映像や音楽ソフトを再生するときは、必ずデジタル音声を選んでください。

2 サラウンドオン/オフボタンを押してサラウンドを「入」にする

• ボタンを押すごとに、サラウンドが「入」⟷「切」します。

再生される音声信号によって異なるサラウンドモードが表示されます。

A：**音声が5.1chのとき**
音声信号に応じて、ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドまたはMPEG-2 AACサラウンドが選ばれます。

B：**音声が2ch(ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドまたはMPEG-2 AAC)のとき**
ドルビープロロジックIIムービー(「PL II MOVIE」)またはドルビープロロジックIIミュージック(「PL II MUSIC」)になります。

C：**音声がアナログ2chまたはリニアPCM*のとき**
前回選んだサラウンドモードになります。

Aの場合　：手順**4**から音質の調節ができます。
B、Cの場合：手順**3**でサラウンドモードを選べます。その後、手順**4**以降で音質の調節ができます。

＊ リニアPCMとは、CDやDVDなどに使われている2チャンネル信号です。

3 サラウンドモードボタンを押してサラウンドモードを選ぶ

Bの場合
ボタンを押すごとに、サラウンドモードは次のように変わります。

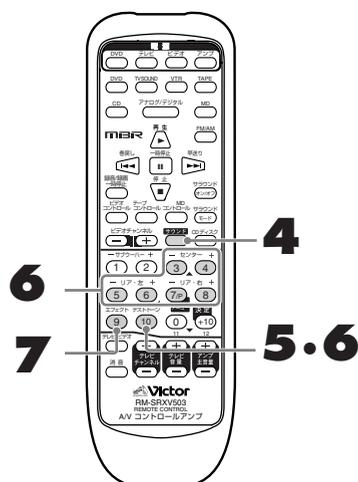
PL II MOVIE ⟷ PL II MUSIC

Cの場合
ボタンを押すごとに、サラウンドモードは次のように変わります。

PL II MUSIC → LIVE CLUB → DANCE CLUB → HALL → PAVILION → ALL CH STEREO → PL II MOVIE → PL II MUSIC

<お知らせ>

- リアスピーカーを「NONE」に登録しているときは、DAPモード(「LIVE CLUB」、「DANCE CLUB」、「HALL」または「PAVILION」)やオールチャンネルステレオ(「ALL CH STEREO」)は選択できません。

きめ細かい調節をしたいときは、手順4へ進みます。調節の内容は、選んだサラウンドによって異なります。

4 サウンドボタンを押す

数字キーでサラウンドの調節ができるようになります。

5 テストトーンボタンを押してテストトーンを出力する（DAPモードとオールチャンネルステレオは除く）

再生音が聞こえなくなります。
表示窓に「TEST TONE L」と点滅表示され、「ザー」という音が次の順序でスピーカーから出力されます。

TEST TONE L（左フロントスピーカー）→ TEST TONE C（センタースピーカー）→ TEST TONE R（右フロントスピーカー）→ TEST TONE RS（右リアスピーカー）→ TEST TONE LS（左リアスピーカー）→ TEST TONE L

- テストトーンはおよそ1分間続きます。
- DAPモード（「LIVE CLUB」、「DANCE CLUB」、「HALL」または「PAVILION」）やオールチャンネルステレオ（「ALL CH STEREO」）を選んだときは、テストトーンは使えません。再生音を聞きながら音の調節をしてください。

＜お知らせ＞

- スピーカーからテストトーンを出さなくても、出力レベルは調節できます。
- 「NONE」に登録しているスピーカーからは、テストトーンは出力されません。スピーカーの出力レベルも調節できません。

6 スピーカーの出力レベルを調節する

- センター +/– ボタンを押して1dBずつセンタースピーカーの出力レベルを調節します。（調節範囲：0dB±10dB）

- リア・左 +/– ボタンを押して1dBずつ左リアスピーカーの出力レベルを調節します。（調節範囲：0dB±10dB）

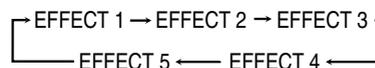
- リア・右 +/– ボタンを押して1dBずつ右リアスピーカーの出力レベルを調節します。（調節範囲：0dB±10dB）

テストトーンをとめるには

テストトーンが出力されているうちに、テストトーンボタンを押します。

7 エフェクトボタンを押してエフェクトレベルを調節する（DAPモードのみ）

- DAPモード（「LIVE CLUB」、「DANCE CLUB」、「HALL」または「PAVILION」）を選んだときは、エフェクトレベルの調節ができます。
- ボタンを押すごとに、エフェクトレベルの設定が次のように変わります。

EFFECT 1 → EFFECT 2 → EFFECT 3 → EFFECT 4 → EFFECT 5 → EFFECT 1

数字が大きくなるほど、DAPの効果が大きくなります。（標準値：EFFECT 3）

＜お知らせ＞

- スピーカーの出力レベルの調節が終わってから、リモコンの数字キーをプリセット選局などにお使いになるときは、FM/AMボタンなどのソース機器選択ボタンを押してから、お使いください。
- DAPモードを選んでいるときは、センタースピーカーの出力レベルを調節することはできません。

サラウンドを使って再生する(本体)

サラウンドを使って再生をします。さらに、音の調節をします(本体でサラウンドの調節をするときは、テストトーンが出力されませんので、音声を聞きながら調節してください)。

- サラウンドをお楽しみいただくときは、デジタル音声/アナログ音声を正しく選んでください(➡ 20 ページ参照)。
- スピーカーの設定については29～30ページを参照してください。
- サラウンドモードの選択やスピーカーの出力の調節は、ソース(音源)ごとに記憶されます。
- テストトーンを使いたいときは、リモコンボタンで調節をしてください。
- 最適な調節をするためには、実際にお聞きになる位置からリモコンを使って調節することをおすすめします。

本体

1 映像や音楽ソフトを再生する

- ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドまたはMPEG-2 AACサラウンドの映像や音楽ソフトを再生するときは、必ずデジタル音声を選んでください。

2 サラウンドオン/オフボタンを押してサラウンドを「入」にする

- ボタン押すごとに、サラウンドが「入」⟷「切」します。

再生される音声信号によって異なるサラウンドモードが表示されます。

A：**音声が5.1chのとき**
音声信号に応じて、ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドまたはMPEG-2 AACサラウンドが選ばれます。

B：**音声が2ch(ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドまたはMPEG-2 AAC)のとき**
ドルビープロロジックⅡムービー(「PL II MOVIE」)またはドルビープロロジックⅡミュージック(「PL II MUSIC」)になります。

C：**音声がアナログ2chまたはリニアPCM*のとき**
前回選んだサラウンドモードになります。

Aの場合：手順**4**で音質の調節ができます。
B、Cの場合：手順**3**でサラウンドモードを選べます。その後、手順**4**以降で音質の調節ができます。

＊ リニアPCMとは、CDやDVDなどに使われている2チャンネル信号です。

3 サラウンドモードボタンを押してサラウンドモードを選ぶ

Bの場合
ボタンを押すごとに、サラウンドモードは次のように変わります。

PL II MOVIE ⟷ PL II MUSIC

Cの場合
ボタンを押すごとに、サラウンドモードは次のように変わります。

PL II MUSIC → LIVE CLUB → DANCE CLUB → HALL → PAVILION → ALL CH STEREO → PL II MOVIE → PL II MUSIC

<お知らせ>

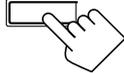
- リアスピーカーを「NONE」に登録しているときは、DAPモード(「LIVE CLUB」、「DANCE CLUB」、「HALL」または「PAVILION」)やオールチャンネルステレオ(「ALL CH STEREO」)は選択できません。

きめ細かい調節をしたいときは、手順4へ進みます。調節の内容は、選んだサラウンドによって異なります。

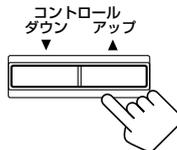
4-1・5-1・6-1

4-2・5-2・6-2

4 スピーカーの出力レベルを調節する

1. **調整ボタンをくり返し押して調節するスピーカーを選ぶ**

REAR L	:左リアスピーカーの出力レベルを調節するとき
REAR R	:右リアスピーカーの出力レベルを調節するとき
CENTER	:センタースピーカーの出力レベルを調節するとき

5秒以内に

2. **コントロールアップ(▲)/ダウン(▼)ボタンを押して1dBずつスピーカーの出力レベルを調節する(調節範囲:0dB±10dB)**

3. **手順1と2をくり返し、他のスピーカーの出力レベルを調節する**

<お知らせ>

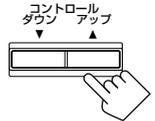
- 「NONE」に登録しているスピーカーを選ぶことはできません。また、DAPモードを選んでいるときは、センタースピーカーの出力レベルを調節することはできません。

5 パノラマ効果を調節する（「PL II MUSIC」のみ）

- 「PL II MUSIC」を選んだときは、パノラマ効果の調節ができます。

1. **調整ボタンをくり返し押して「PANORAMA」を表示させる**

5秒以内に

2. **コントロールアップ(▲)/ダウン(▼)ボタンを押す。**
   - ボタンを押すごとに、次のように設定が変わります。

PANORAMA ON ⟷ PANORAMA OFF

PANORAMA ON	より広がりのある音響効果を楽しみたいとき
PANORAMA OFF	パノラマ効果を解除するとき

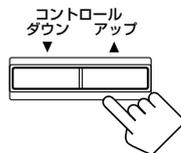
6 エフェクトレベルを調節する（DAPモードのみ）

- DAPモード(「LIVE CLUB」、「DANCE CLUB」、「HALL」または「PAVILION」)を選んだときは、エフェクトレベルの調節ができます。

1. **調整ボタンをくり返し押して「EFFECT」を表示させる**

調 整

5秒以内に

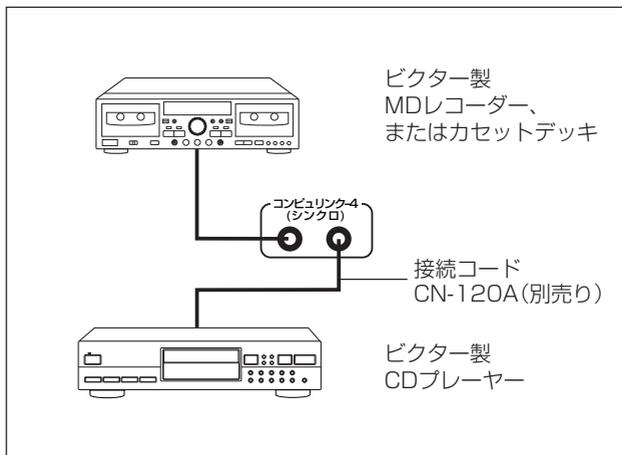
2. **コントロールアップ(▲)/ダウン(▼)ボタンを押してエフェクトレベルを調節する**
   - ボタンを押すごとに、エフェクトレベルの設定が次のように変わります。

数字が大きくなるほど、DAPの効果が大きくなります。(標準値:EFFECT 3)

コンピュリンク･リモートコントロールシステム

ビクター製のコンピュリンク対応オーディオ機器をコンピュリンク-4(シンクロ)端子を使って接続すると、一体型システムのような簡単操作が実現できます。

コンピュリンクの接続

基本的な接続をした上で、モノラルミニプラグ付きの接続コードを使って、各オーディオ機器のコンピュリンク-4(シンクロ)端子どうしを接続してください。
下の図は基本的な接続例です。すべての機器を橋渡しするように接続します。順番に決まりはありません。
機器によっては、コンピュリンク端子が1つしかない機器もあります。このようなときは、その機器が一番最後になるように接続してください。

- **接続する前に、必ず電源プラグを家庭用コンセントから抜いておいてください。**
  すべての接続が終わってから電源を入れてください。

<お知らせ>
- コンピュリンク端子が2つあるときには、どちらを使っても接続できます。
- MDレコーダーまたはカセットデッキをコンピュリンクで操作するときは、表示窓に表示されるソース(音源)機器の表示名を正しく設定してください。(➡ 17 ページ参照)
- 接続するオーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

コンピュリンク4の機能

コンピュリンク4対応製品とそれ以前のバージョンの製品を接続して使用することもできますが、そのときは最新の機能に対応した動作はできません。
- 操作の前に、接続するオーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

リモコンによる一括操作

CDプレーヤーやMDレコーダー、カセットデッキなどのソース機器を本機のリモコンで操作することができます。リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作してください。(➡ 14 ページ参照)

自動電源「入/切」機能:コンピュリンク3とコンピュリンク4対応機種間のみ

本機の電源を入れると、そのとき選ばれているソース機器(CDプレーヤーやMDレコーダーなど)の電源も自動的に入ります。
また、本機の電源を切ると、その他のオーディオ機器の電源も自動的に切れます。

自動再生(イチ押し再生)機能

ソース機器(CDプレーヤーやMDレコーダーなど)で再生を始めると、自動的に本機の電源が入り、そのソースが選ばれて、スピーカーから音が出ます。
また、本機で再生するソースを選ぶと、そのソース機器の電源が自動的に入り、再生が始まります(ディスクなどが入っている場合)。

シンクロ録音機能

ソース機器の再生と同時に、録音機器で録音を自動的に始めることができます。

例: CDプレーヤーからMDレコーダーに録音する場合

1. **CDプレーヤーにCDを入れる**
2. **MDレコーダーに録音用のMDを入れる**
3. **MDレコーダーのREC PAUSE(録音一時停止)を押す**
4. **CDプレーヤーを演奏状態にする**
   本機で再生するソースが自動でCDに切り換わり、MDレコーダーでシンクロ録音が始まります。

<お知らせ>
- シンクロ録音中は、ソース機器選択ボタンは働きません。
- シンクロ録音中に、接続している機器のいずれかの電源が切れると、コンピュリンク･リモートコントロールシステムは正しく動作しないことがあります。このようなときは、最初からやり直してください。

リモコンでビクター製の機器を操作する

本機に付属しているリモコンでビクター製のAV機器を操作することができます。

リモコンでビクター製のオーディオ機器を操作するときは

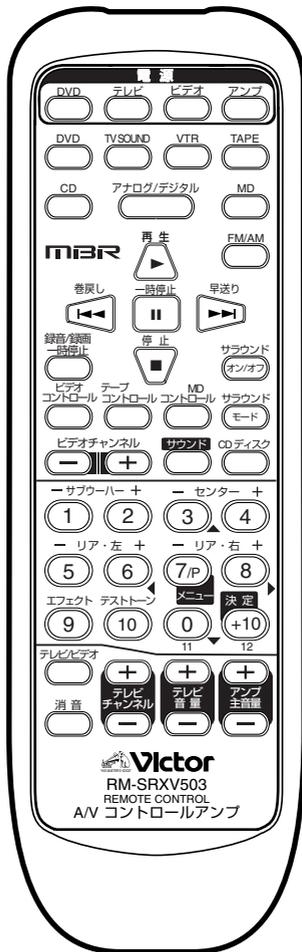
- 10 ～ 12 ページの接続をしてから、モノラルミニプラグ付きの接続コードを使ってコンピュリンク-4（シンクロ）端子どうしを接続してください。
  （➡ 36 ページ参照）
- リモコンは、本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 本体前面のソース機器選択ボタンでソース（音源）を選んだときは、リモコンでは操作できません。
  必ずリモコンのソース機器選択ボタンを使ってソース（音源）を選んでください。
- 接続している機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

本機のチューナー部

FM/AM　：FM放送/AM放送を選びます。

FM/AMボタンを押したあとで、次の操作ができます。

1～10、＋10　：記憶してある放送局のプリセット番号を直接選びます（プリセット選局）。

（例）・プリセット番号5を選ぶときは、
5 を押します。
・プリセット番号15を選ぶときは、
+10 ➔ 5 と押します。
・プリセット番号20を選ぶときは、
+10 ➔ 10 と押します。

本機のアンプ部

サラウンドオン/オフ：サラウンドの「入/切」を切り換えます。

サラウンドモード：サラウンドモード（ドルビープロロジックⅡ、DAP、オールチャンネルステレオ）を選びます。

サウンドボタンを押したあとで、次の操作ができます。

サブウーハー ＋/－	：サブウーハーの出力レベルを調節します。
センター ＋/－	：センタースピーカーの出力レベルを調節します。
リア・左 ＋/－	：左リアスピーカーの出力レベルを調節します。
リア・右 ＋/－	：右リアスピーカーの出力レベルを調節します。
エフェクト	：エフェクトレベルを調節します。
テストトーン	：サラウンド時に、テストトーンを出力します。

リモコンでビクター製の機器を操作する(つづき)

CDプレーヤー

CDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

再生(►) : 演奏を始めます。

⏮ : 演奏中の曲(または前の曲)の頭に戻ります。

⏭ : 次の曲の頭にスキップします。

停止(■) : 演奏を停止します。

一時停止(❚❚) : 演奏を一時停止します。再び演奏を始めるときは、再生(►)を押します。

1〜10、+10 : 曲番号を直接選びます(ダイレクト選曲)。

(例)
- 曲番号5を選ぶときは、(5)を押します。
- 曲番号15を選ぶときは、(+10)➔(5)と押します。
- 曲番号20を選ぶときは、(+10)➔(10)と押します。
- 曲番号30を選ぶときは、(+10)➔(+10)➔(10)と押します。

MDレコーダー

MDボタンまたはMDコントロールボタンを押したあとで、次の操作ができます。

再生(►) : 演奏を始めます。

⏮ : 演奏中の曲(または前の曲)の頭に戻ります。

⏭ : 次の曲の頭にスキップします。

停止(■) : 演奏(または録音)を停止します。

一時停止(❚❚) : 演奏(または録音)を一時停止します。再び演奏(または録音)を始めるときは、再生(►)を押します。

録音/録画一時停止 : 録音待機状態になります。

1〜10、+10 : 曲番号を直接選びます(ダイレクト選曲)。

(例)
- 曲番号5を選ぶときは、(5)を押します。
- 曲番号15を選ぶときは、(+10)➔(5)と押します。
- 曲番号20を選ぶときは、(+10)➔(10)と押します。
- 曲番号30を選ぶときは、(+10)➔(+10)➔(10)と押します。

CDチェンジャー

CDディスクボタンを押したあとで、次の操作ができます。

再生(►) : 演奏を始めます。

⏮ : 演奏中の曲(または前の曲)の頭に戻ります。

⏭ : 次の曲の頭にスキップします。

停止(■) : 演奏を停止します。

一時停止(❚❚) : 演奏を一時停止します。再び演奏を始めるときは、再生(►)を押します。

1〜6、7/P : ディスク番号を選びます。

CDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

1〜10、+10 : 曲番号を直接選びます(ダイレクト選曲)。

(例)
- 曲番号5を選ぶときは、(5)を押します。
- 曲番号15を選ぶときは、(+10)➔(5)と押します。
- 曲番号20を選ぶときは、(+10)➔(10)と押します。
- 曲番号30を選ぶときは、(+10)➔(+10)➔(10)と押します。

カセットデッキ

TAPEボタンまたはテープコントロールボタンを押したあとで、次の操作ができます。

再生(►) : 再生を始めます。

巻戻し : テープを巻き戻します。

早送り : テープを早送りします。

停止(■) : 再生(または録音)を停止します。

一時停止(❚❚) : 再生(または録音)を一時停止します。再び再生(または録音)を始めるときは、再生(►)を押します。

録音/録画一時停止 : 録音待機状態になります。

<お知らせ>

- **MDボタンとTAPEボタンならびにMDコントロールボタンとテープコントロールボタンについて**
  MDボタンまたはTAPEボタンを押すと再生するソース(音源)も切り換わりますが、MDコントロールボタンまたはテープコントロールボタンを押してもソース(音源)は切り換わりません。
- ソース機器選択時にソース機器名を表示窓に正しく表示させるため、MD/TAPE端子に接続しているソース機器名を正しく「MD」または「TAPE」に設定してください。(➔ 17 ページ参照)

リモコンでビクター製のビデオ機器を操作するときは

- ビデオデッキやDVDプレーヤー、テレビを操作するときは、**それぞれの機器のリモコン受光部に向けてリモコンを操作してください。**
- 接続している機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ビデオデッキ

- ビデオデッキのリモコンコードは「A」に設定してください。

ビデオ電源　:ビデオデッキの電源を「入/切」します。

VTRボタンまたはビデオコントロールボタンを押したあとで、次の操作ができます。

再生(▶)　:再生を始めます。
巻戻し　:テープを巻き戻します。
早送り　:テープを早送りします。
停止(■)　:再生(または録画)停止します。
一時停止(❚❚)　:再生(または録画)を一時停止します。再び再生(または録画)を始めるときは、再生(▶)を押します。
録音/録画一時停止
　:録画待機状態になります。

<お知らせ>
VTRボタンとビデオコントロールボタンについて

- VTRボタンを押すとソース(音源)がVTRに切り換わりますが、ビデオコントロールボタンを押してもソース(音源)は切り換わりません。

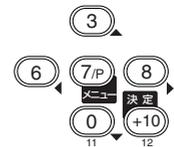
DVDプレーヤー

DVD電源　:DVDプレーヤーの電源を「入/切」します。

DVDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

再生(▶)　:再生を始めます。
⏮◀　:再生中のチャプター(または前のチャプター)の頭に戻ります。
▶⏭　:次のチャプターの頭にスキップします。
停止(■)　:再生を停止します。
一時停止(❚❚)　:再生を一時停止します。再び再生を始めるときは、再生(▶)を押します。

DVDボタンを押すと、右のボタンは、DVDプレーヤーのメニュー操作ボタンになります。

- 操作については、ディスクまたはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

テレビ

テレビ電源　:テレビの電源を「入/切」します。
テレビ音量 +/−:テレビの音量を調節します。
テレビチャンネル +/−
　:テレビのチャンネルを変更します。
テレビ/ビデオ　:テレビの入力を切り換えます。

TV SOUNDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

1〜12　:テレビの受信チャンネルを選びます。

<お知らせ>

- デジタルテレビは本機のリモコンでは操作できません。

リモコンで他メーカーの機器を操作する

本機のリモコンで他メーカーのテレビやビデオデッキ、DVDプレーヤーを操作することができます。

リモコンで他メーカーのテレビやビデオデッキ、DVDプレーヤーを操作するときは、それぞれのメーカーに対応したコードを設定する必要があります。
また、それらの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意
- リモコンの乾電池を交換したときは、もう一度メーカーの設定をやり直してください。

テレビのメーカーを設定する

1. テレビ電源ボタンを押したまま･･･
TV SOUNDボタンを押したあと、数字キー(1～9、0)を使ってメーカーのコード番号(2ケタ)を入力する

各メーカーのコード番号は 41 ページをご覧ください。

例: お使いのテレビが松下製(02)のとき

TV SOUND ➔ 0 ➔ 2 と押す

2. テレビ電源ボタンを離す

3. テレビ電源ボタンを押して設定を確認する

テレビの電源が「入/切」できたら設定は終了です。
もしうまく機能しないときは、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定をやり直します。

テレビを操作する

テレビ電源 : テレビの電源を「入/切」します。
テレビ音量 +/− : テレビの音量を調節します。
テレビチャンネル +/− : テレビのチャンネルを変更します。
テレビ/ビデオ : テレビの入力を切り換えます。

TV SOUNDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

1～12 : テレビの受信チャンネルを選びます。

<お知らせ>
- デジタルテレビは、本機のリモコンでは操作できません。

ビデオデッキのメーカーを設定する

1. ビデオ電源ボタンを押したまま･･･
VTRボタンを押したあと、数字キー(1～9、0)を使ってメーカーのコード番号(2ケタ)を入力する

各メーカーのコード番号は 41 ページをご覧ください。

例: お使いのビデオデッキが松下製(04)のとき

VTR ➔ 0 ➔ 4 と押す

お使いのビデオデッキがサンヨー製(12)のとき

VTR ➔ 1 ➔ 2 と押す

2. ビデオ電源ボタンを離す

3. ビデオ電源ボタンを押して設定を確認する

ビデオデッキの電源が「入/切」できたら設定は終了です。
もしうまく機能しないときは、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定をやり直します。

ビデオデッキを操作する

ビデオ電源 : ビデオデッキの電源を「入/切」します。
ビデオチャンネル +/− : チャンネルを変更します。

VTR ボタンまたはビデオコントロールボタンを押したあとで、次の操作ができます。

再生(►) : 再生を始めます。
停止(■) : 再生(または録画)を停止します。
一時停止(❚❚) : 再生(または録画)を一時停止します。再び再生(または録画)を始めるときは、再生(►)を押します。
巻戻し : テープを巻き戻します。
早送り : テープを早送りします。
録音/録画一時停止 : 録画待機状態になります。

<お知らせ>

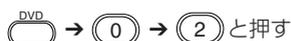
VTRボタンとビデオコントロールボタンについて
- VTRボタンを押すと再生するソースもVTRに切り換わりますが、ビデオコントロールボタンを押してもソース(音源)は切り換わりません。

DVDプレーヤーのメーカーを設定する

1. DVD電源ボタンを押したまま･･･
DVDボタンを押したあと、数字キー(1〜9、0)を使ってメーカーのコード番号(2ケタ)を入力する

各メーカーのコード番号は右の表をご覧ください。

例: お使いのDVDプレーヤーが松下製(02)のとき

DVD ➔ 0 ➔ 2 と押す

2. DVD電源ボタンを離す

3. DVD電源ボタンを押して設定を確認する

DVDの電源が「入/切」できたら設定は終了です。

DVDを操作する

DVD電源 : DVDプレーヤーの電源を「入/切」します。

DVDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

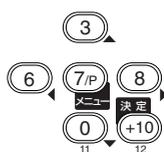
再生(►) : 再生を始めます。

|◄◄ : 再生中のチャプター(または前のチャプター)の頭に戻ります。

►►| : 次のチャプターの頭にスキップします。

停止(■) : 再生を停止します。

一時停止(❚❚) : 再生を一時停止します。
再び再生を始めるときは、再生(►)を押します。

DVDボタンを押すと、右のボタンは、DVDプレーヤーのメニュー操作ボタンになります。
・操作については、ディスクまたはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

メーカーごとのコード番号一覧

機器名	メーカー名	コード番号
テレビ	日本ビクター	01
	松下	02、03
	三菱	04
	ソニー	05
	日立	06
	東芝	07
	サンヨー	08、09
	シャープ	10
	パイオニア	11
	NEC	12
	フナイ	13、16、17
	アイワ	14
	富士通ゼネラル	15
ビデオデッキ	日本ビクター	01、02、03
	松下	04、05
	三菱	06
	ソニー	07、08、09
	日立	10
	東芝	11
	サンヨー	12、13、14
	シャープ	15、16
	パイオニア	17
	NEC	18
	フナイ	19、20、21、22
	アイワ	23
	富士通ゼネラル	24
	フィリップス	25
DVDプレーヤー	日本ビクター	01
	松下	02
	ソニー	03
	東芝	04
	シャープ	05
	パイオニア	06

故障かな?と思う前に

症状	原因	処置
表示窓が点灯しない。	電源コードがはずれている。	電源コードを家庭用コンセントに差し込む。
音が出ない。	スピーカーコードが接続されていない。	接続を確認する。
	スピーカーが「切」になっている。	スピーカーオン/オフボタンを押してスピーカーを「入」にする。
	間違ったソースが選択されている。	正しいソースを選択する。
	消音機能が働いている。	消音ボタンを押して消音機能を解除する。
	間違った音声方式(アナログまたはデジタル)が選択されている。	正しい音声方式(アナログまたはデジタル)を選択する。
	ソース機器が正しく接続されていない。	接続を確認する。 ・アナログ接続(➡10～12ページ参照) ・デジタル接続(➡12ページ参照)
片方のスピーカーからしか音が出ない。	スピーカーコードが正しく接続されていない。	接続を確認する。
	左右のバランスが合っていない。	左右のバランスを正しく調節する。
FM放送を受信中に連続的に雑音が入る。	受信している電波が弱すぎる。	FM屋外アンテナを接続するか、お買い上げの販売店に問い合わせる。
	放送局が遠い。	別の放送局を選局する。
	アンテナが正しく接続されていない。	接続を確認する。
FM放送を受信中にときどき雑音が入る。	自動車などからのイグニッションノイズの影響を受けている。	アンテナを道路から遠ざける。
AM放送を受信中に雑音が入る。	アンテナ端子の⏚(アース)にアース線が接続されていない。	アンテナ端子の⏚(アース)にアース線を接続する。
リモコンで操作できない。	入力したメーカーのコード番号(2ケタ)が間違っている。	正しいコード番号(2ケタ)を入力し直す。
	本機のリモコン受光部の前に障害物がある。	障害物を取り除く。
	電池が消耗している。	電池を交換する。
リモコンが意図しない動作をする。	間違ったソース機器が選ばれている。	正しいソース機器を選択する。 (➡37～41ページ参照)
「DSP MICOM NG」が表示窓に表示される。	内蔵のマイコンが正常に動作していない。	電源ボタンを押して本機の電源を切り、コンセントを抜いてお買い上げの販売店に問い合わせる。
マイクの音声が出ない。	デジタル音声入力が選択されている。	アナログ音声入力を選択する。
	マイクミキシングつまみが「ソース」側になっている。	マイクミキシングつまみを「マイク」側に回して、マイク音量を上げる。

症状	原因	処置
電源を入れた後にスタンバイランプが点灯し、「切(待機状態)」になる。	本機に異常な電圧がかかっている。	電源ボタンを押して本機の電源を切り、コンセントを抜いてお買い上げの販売店に問い合わせる。
	メイク接点入力端子が「切」の設定(外部から)	入力端子接続の外部設定をかえる。
「OVERLOAD」が表示窓で点滅する	音量(ボリューム)が大きいため、スピーカーに負荷がかかりすぎている。	1. 電源ボタンを押して本機の電源を切る 2. 再生している機器の電源を切る 3. 電源ボタンを押して本機の電源を入れ、音量(ボリューム)を調節する
	スピーカー端子がショートしたため、アンプ部に負荷がかかりすぎている。	1. 電源ボタンを押して本機の電源を切る 2. スピーカーが正しく接続されているかどうか確かめる 3. もう一度電源ボタンを押して本機の電源を入れる スピーカー端子がショートしていない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

用語解説

■ リニアPCM音声
アナログ音声信号をデジタル信号に変換して扱う方式の一つで、変換に際して圧縮処理を全くしない音声信号のことです。従来の音楽CDにつかわれているデジタル音声です。

■ ドルビープロロジックII
ドルビープロロジックIIデコーダーにより、すべての2ch音声を5.1ch音声にまで拡張します。また、リアスピーカーの高音域の再現が加味され、すぐれた臨場感が生まれます。プロロジックIIムービーとプロロジックIIミュージックの2方式があります。

■ ドルビーデジタル
5.1chの音声トラックを持つサラウンド方式。フロント側3ch(レフト、ライト、センター)に加え、リア出力もステレオ化した上にフロント側と同じ周波数帯域を持たせています。さらに独立したサブウーハー(5.1chの0.1ch部分)信号を記録しています。あらかじめ5.1chが分離された状態で記録されており、チャンネルセパレーションも良好です。さらに全ての音がデジタル信号で処理されるので、劣化しにくいという特長を持っています。

■ サラウンド
サラウンドホニックサウンドシステムを略してサラウンドと呼びます。視聴者の周囲に複数のスピーカーを配置することによって、臨場感あふれるサウンドの再生ができます。

■ LFE(Low Frequency Effect)
ドルビーデジタル5.1chやDTSデジタルサラウンドに記録されている低音域のことです。

■ DTS(Digital Theater System)デジタルサラウンド
信号のチャンネル数は、ドルビーデジタルと同じ5.1chですが、ドルビーデジタルを上回るデータ量を持ちます。さらに、デジタル録音時の音声圧縮率を低くしたフォーマットのため、厚みのある高音質な再生が可能になっています。
また、ダイナミックレンジが広くセパレーションに優れるなど緻密で雄大なサウンドが特長です。

■MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)
MPEG-2オーディオ方式の一つで、国内のBSデジタル放送で採用されている音声符号化規格です。
BSデジタル用のAACフォーマットは、3種類規定されているうちの「標準」にあたります。
これは、サンプリング周波数32kHz、44.1kHz、48kHzの3種類で最大5.1chまでのマルチチャンネルに対応します。放送の限られた帯域を利用し、低ビットレートで高音質を確保できる点が特徴です。

用語索引

入力信号／サラウンド対応表（➡ 26と27ページ参照）

音声方式 入力信号	SURROUND OFF (ステレオ)	DOLBY DIGITAL	MPEG-2 AAC	DTS SURROUND	PL II MOVIE	PL II MUSIC	LIVE CLUB	DANCE CLUB	HALL	PAVILION	ALL CH STEREO
ドルビーデジタル (マルチチャンネル)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ドルビーデジタル (2 チャンネル)	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
DTS デジタルサラウンド (マルチチャンネル)	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
DTS デジタルサラウンド (2 チャンネル)	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
MPEG-2 AAC サラウンド (マルチチャンネル)	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
MPEG-2 AAC サラウンド (2 チャンネル)	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
リニア PCM	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○
アナログ	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○

保証とアフターサービス

保　証　書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保　証　期　間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

AVコントロールアンプの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**または46ページの**「ビクターサービス窓口案内」**をご覧のうえ最寄りのサービス窓口にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは　出張修理

42ページの**「故障かな？と思う前に」**に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、**お買い上げの販売店**に修理をご依頼ください。このとき不具合の発生したディスクなども一緒にご用意ください。

保　証　期　間　中　は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

項目	内容
品　名	AVコントロールアンプ
型　名	RX-V503T
お買い上げ	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印等も併せてお知らせください
お　名　前	
電話番号	
訪問ご希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎（　　）　ー

修　理　料　金　の　仕　組　み

項目	内容
技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、測定器機等設備費、故障診断、修理および部品交換、調整、点検などの作業にかかる費用です。

＋

項目	内容
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

項目	内容
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

■保守・点検
本機の性能を維持するため、長時間連続してお使いになる場合、およそ3年使用をめどに「保守・定期点検」を受けることをお勧めします。なおこの時間は使用環境（湿度、温度、ホコリ）などに左右されます。詳しくは、お買い上げの 販売店にご相談ください。

別売りアクセサリー

- サテライトスピーカーシステム…SP-X100（5本1組）
- パワードサブウーハー……SP-PW100、SX-PW7
- スピーカーシステム……SX-L3（1本売り）
  SX-LC3（1本売り）
  SX-L5（1本売り）
  SX-L7（1本売り）
- 光デジタルケーブル……XN-110E（長さ1m）
- 同軸コード（映像用接続コード）……CN-D110E（長さ1m）
- RCAピンプラグコード……CN-510E（長さ1m）
- 接続コード（ミニプラグ）……CN-120A（長さ1.5m）
- 整合器……VZ-71A

■別売りアクセサリーはお買い上げの販売店でお求めください。
■本機の故障または不具合などにより利用の機会を逸したために発生した損害などの補償については、ご容赦ください。

ビクターサービス窓口案内（ビクターサービスエンジニアリング株式会社）

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
北海道				
北海道	札幌S.C.	(011)898-1180	004-0005	札幌市厚別区厚別東5条1-2-29
	旭川S.C.	(0166)61-3659	070-8012	旭川市神居二条3-2-15
	北見S.S.	(0157)25-8557	090-0037	北見市山下町4-7-19
	釧路S.S.	(0154)24-0797	080-0005	釧路市松浦町3番3号
	帯広S.S.	(0155)24-4493	080-0806	帯広市東六条南12-11
	函館S.S.	(0138)52-5324	040-0001	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
東北				
青森	青森S.C.	(017)723-2261	030-0844	青森市桂木4-6-17
	八戸S.S.	(0178)44-4521	031-0803	八戸市諏訪2-2-36
	弘前S.S.	(0172)28-0165	036-8084	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡S.C.	(019)637-0121	020-0835	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢S.S.	(0197)22-2773	023-0815	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田S.C.	(018)824-3189	010-0953	秋田市山王中園町4-1
	大館S.S.	(0186)43-0980	017-0874	大館市美園町5-6
	横手S.S.	(0182)32-8873	013-0064	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台S.C.	(022)287-0151	984-0011	仙台市若林区六丁の目西町7-13
	石巻S.S.	(0225)94-7711	986-0853	石巻市門脇字四番谷地8-18
山形	山形S.C.	(023)642-0279	990-2412	山形市松山3-12-18
	酒田S.S.	(0234)26-7145	998-0842	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山S.C.	(024)952-6331	963-0205	郡山市堤1-3
	いわきS.S.	(0246)27-7991	973-8409	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
	会津若松S.S.	(0242)38-1355	965-0831	会津若松市表町1-44ハイツシンフォニー101
	福島S.S.	(024)553-9437	960-0103	福島市本内字南原26-1
関東・甲信越				
新潟	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(025)241-4003	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	新潟S.C.	(025)242-3431	950-0084	新潟市明石1-2-19
	長岡S.S.	(0258)24-8391	940-0012	長岡市下下条2-1366-1
	上越S.S.	(0255)45-1734	942-0081	上越市五智1-11
長野	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(026)221-7607	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	長野S.C.	(026)221-6583	380-0913	長野市川合新田962-1
	松本S.S.	(0263)25-9165	390-0828	松本市庄内2-4-21
群馬	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(027)255-5982	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	前橋S.C	(027)255-5921	371-0854	前橋市大渡町1-19-1
栃木	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(028)635-2938	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	宇都宮S.C	(028)638-1639	321-0953	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	土浦S.C.	(0298)21-8756	300-0813	土浦市富士崎1-10-1
	水戸S.S.	(029)246-1560	310-0836	水戸市元吉田町1077
山梨	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(055)227-5773	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	甲府S.S.	(055)237-4016	400-0864	甲府市湯田2-11-5
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	千葉S.C.	(043)246-2588	261-0001	千葉市美浜区幸町2-1-1
	柏S.C.	(0471)75-4322	277-0863	柏市豊四季512-10-67
	浦安S.S.	(047)353-6189	279-0001	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	本郷S.C.	(03)5684-8254	113-0033	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	秋葉原S.S	(03)3251-2128	101-0021	千代田区外神田1-6-6
	練馬S.C.	(03)3993-7520	176-0014	練馬区豊玉南1-19-1
	大田S.C.	(03)3727-9385	145-0062	大田区北千束2-20-6
	八王子S.C.	(0426)46-6914	192-0045	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	首都圏メンテナンスセンター	(03)3874-5231	110-0003	台東区根岸5-4-3
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大宮S.C.	(048)654-5241	330-0037	さいたま市東大成町2-658-1
	熊谷S.S.	(048)553-5105	361-0057	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	横浜S.C.	(045)651-0403	231-0028	横浜市中区翁町1-3-1
	川崎S.C.	(044)975-1879	216-0024	川崎市宮前区南平台3-2（第2石原ビル）
	平塚S.C.	(0463)36-2160	254-0065	平塚市南原2-4-5
	相模原S.C	(042)776-2052	229-0004	相模原市古淵3-7-4

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
東海・北陸				
静岡	静岡S.C.	(054)282-4141	422-8043	静岡市中田本町62-31
	沼津S.S.	(0559)22-1557	410-0041	沼津市筒井町6-5
	浜松S.S.	(053)421-3441	435-0041	浜松市北島町785
愛知	名古屋S.C.	(0568)25-3235	481-0041	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河S.C.	(0564)51-5931	444-0833	岡崎市桂曜3-10-12
	豊橋S.S.	(0532)64-0815	440-0853	豊橋市佐藤5-19-1
岐阜	岐阜S.S.	(058)274-1947	500-8367	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重S.S.	(0593)52-0841	510-0076	四日市市堀木2-15-2
	津S.S.	(059)229-7780	514-0815	津市大字藤方485-18
富山	富山S.C.	(076)425-2397	939-8211	富山市二口町四丁目1-3
石川	金沢S.C.	(076)269-4821	921-8062	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井S.S.	(0776)53-6916	910-0843	福井市西開発3-211
近畿				
滋賀	滋賀S.S.	(077)582-5812	524-0033	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	京都S.C.	(075)644-0247	612-8401	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山S.S.	(0773)22-8664	620-0059	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	奈良S.S.	(0744)24-6271	634-0007	橿原市葛本町834-2
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	大阪南S.C.	(06)6768-5489	543-0028	大阪市天王寺区小橋町10-16
	堺S.C.	(0722)54-2881	591-8032	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	大阪メンテナンスセンター	(06)6304-6715	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山S.S.	(073)472-6799	640-8323	和歌山市太田430-8
	田辺S.S.	(0739)22-9976	646-0031	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	神戸S.C.	(078)252-0562	651-0086	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路S.S.	(0792)34-3833	670-0975	姫路市中地南町11-1
中国				
岡山	岡山S.C.	(086)243-1566	700-0927	岡山市西古松西町8-23
広島	広島S.C.	(082)243-9839	730-0825	広島市中区光南3-9-17
	福山S.S.	(0849)31-6984	721-0973	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口S.C.	(083)973-3708	754-0022	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳山S.S.	(0834)27-1331	745-0042	徳山市野上町2-35
	下関S.S.	(0832)51-1040	751-0852	下関市熊野町2-14-23
島根	山陰ビクター販売(株) サービスセンター (松江・米子担当)	(0852)31-8900	690-0823	松江市学園1-16-39
	出雲営業所サービス係	(0853)21-4611	693-0001	出雲市今市町854
	浜田営業所サービス係	(0855)22-1584	697-0023	浜田市長沢町671-1
鳥取	鳥取営業所サービス係	(0857)23-2151	680-0911	鳥取市千代水1丁目22-1
四国				
香川	高松S.C.	(087)866-1200	761-8057	高松市田村町205-1
徳島	徳島S.C.	(088)622-7387	770-8052	徳島市沖浜2-37
高知	高知S.S.	(088)882-0546	780-8122	高知市高須新町4-143
愛媛	松山S.C.	(089)923-0372	791-8015	松山市中央1-4-12
	宇和島S.S.	(0895)20-1018	798-0087	宇和島市坂下津甲407-40
九州・沖縄				
福岡	福岡S.C.	(092)-431-1261	812-0011	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米S.S	(0942)-39-3495	830-0038	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州S.C.	(093)921-3981	802-0064	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎S.C.	(095)862-5522	852-8021	長崎市城山町9-13
	佐世保S.S	(0956)33-5568	857-1166	佐世保市木風町1467-2
大分	大分S.S.	(097)543-1422	870-0882	大分市大道町4-1-2
熊本	熊本S.C.	(096)353-4536	861-4101	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎S.S.	(0985)24-5401	880-0032	宮崎市霧島町3-59
	延岡S.S	(0982)35-7707	882-0857	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島S.C.	(099)282-8818	890-0034	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄S.C.	(098)898-3631	901-2224	沖縄県宜野湾市真志喜1-13-16

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0302

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。

主な仕様

• JEITAは、電子情報技術産業協会の規格による測定値です。

アンプ部

項目			
実用最大出力	フロント		:100W+100W(6Ω)
(JEITA)	センター		:100W(6Ω)
	リア		:100W+100W(6Ω)
全高調波ひずみ率			:0.09%(6Ω、20Hz〜20kHz、40W+40W)
音声入力端子			(入力感度/インピーダンス)
(アナログ入力)	マイク		:3mV/600Ω〜10kΩ
	CD、MD/TAPE、VTR、TV SOUND、DVD		:220mV/47kΩ
(デジタル入力)	同軸	デジタル 1(DVD)	:0.5V(p-p)/75Ω
	光	デジタル 2(CD)	:–21dBm 〜 –15dBm
	(サンプリング周波数　32kHz、44.1kHz、48kHzに対応)		
音声出力端子			(出力レベル)
(アナログ出力)	MD/TAPE、VTR		:220mV
	サブウーハー		
S/N比(音声)	CD、MD/TAPE、VTR、TV SOUND、DVD		:88dB('66 IHF、Aネットワーク)
周波数特性	CD、MD/TAPE、VTR、TV SOUND、DVD		:20Hz〜20kHz (±1dB)
トーンコントロール	バス(BASS)		:±10dB (100Hz)
	トレブル(TREBLE)		:±10dB (10kHz)
映像入力端子			(入力感度/インピーダンス)
	コンポジット映像	DVD、VTR	:1V(p-p)/75Ω、同期負
	S映像	DVD、VTR	Y:1V(p-p)/75Ω
			C:0.286V(p-p)/75Ω
映像出力端子			(出力レベル/インピーダンス)
	コンポジット映像	モニター出力、VTR	:1V(p-p)/75Ω、同期負
	S映像	モニター出力、VTR	Y:1V(p-p)/75Ω
			C:0.286V(p-p)/75Ω
S/N比(映像)			:45dB

その他の端子
コンピュリンク-4(シンクロ)×2
メイク接点×2

FMチューナー部

項目		
受信周波数		:76.00MHz〜108.00MHz
S/N比	モノラル	:75dB(85dBf)
	ステレオ	:73dB(85dBf)
全高調波ひずみ率	モノラル	:0.4%(1kHz)
	ステレオ	:0.6%(1kHz)
アンテナ		:75Ω不平衡型
周波数特性		:30Hz〜15kHz(+0.5dB、–3dB)

AMチューナー部

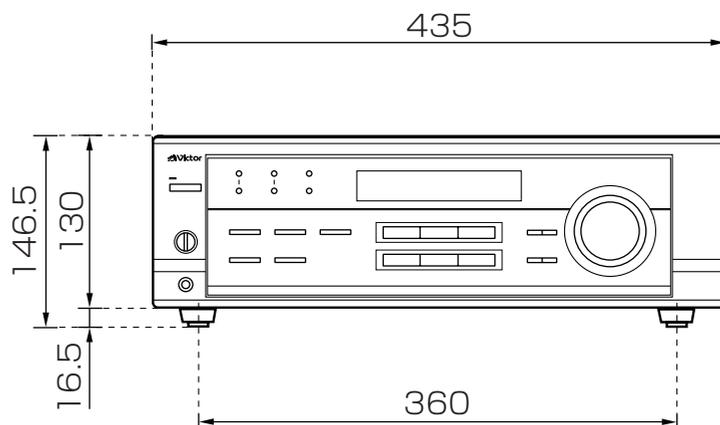
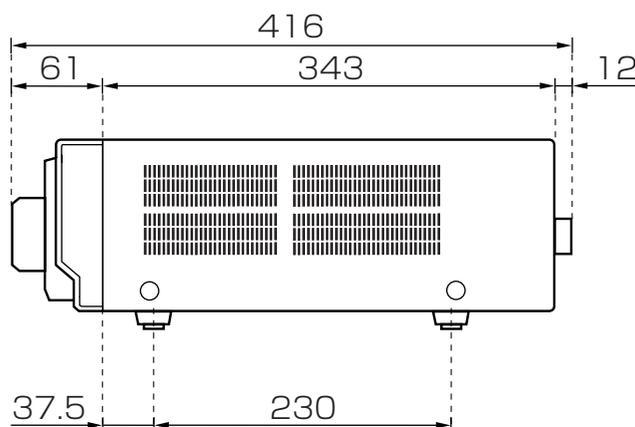
項目	
受信周波数	:531kHz〜1,629kHz
S/N比	:48dB(100mV/m)
実用感度	:400μV/m
アンテナ	:外部アンテナ端子(ループアンテナ)

その他

項目		
電源		AC100V、50Hz/60Hz共用
消費電力		電源「入」時　210W
		「切(待機状態)」時　2W
最大外形寸法	(幅×高さ×奥行)	435mm×146.5mm×416mm
質量		9.6 kg
付属品		リモコン(RM-SRXV503) 1
		単3形乾電池(リモコン動作確認用) 2
		AMループアンテナ 1
		FM簡易型アンテナ 1

本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

寸法図(単位：mm)

■前面

■側面

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、
お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記のご相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング株式会社**	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 **お客様ご相談センター**
46 ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	東京 ☎(03) 5684-9311 FAX(03) 5684-9317 〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目14-7 ビクター本郷ビル 大阪 ☎(06) 6765-4161 FAX(06) 6765-4891 〒543-0028 大阪市天王寺区小橋町10-16 大阪ビクタービル

ビクターインターネットホームアドレス　http://www.jvc-victor.co.jp/

日本ビクター株式会社

パーソナル＆モビールネットワークビジネスユニット
〒371-8543　群馬県前橋市大渡町一丁目10番地の1 ☎（027）254-8952

0502NHMMDWJEIN